

■提案のポイント

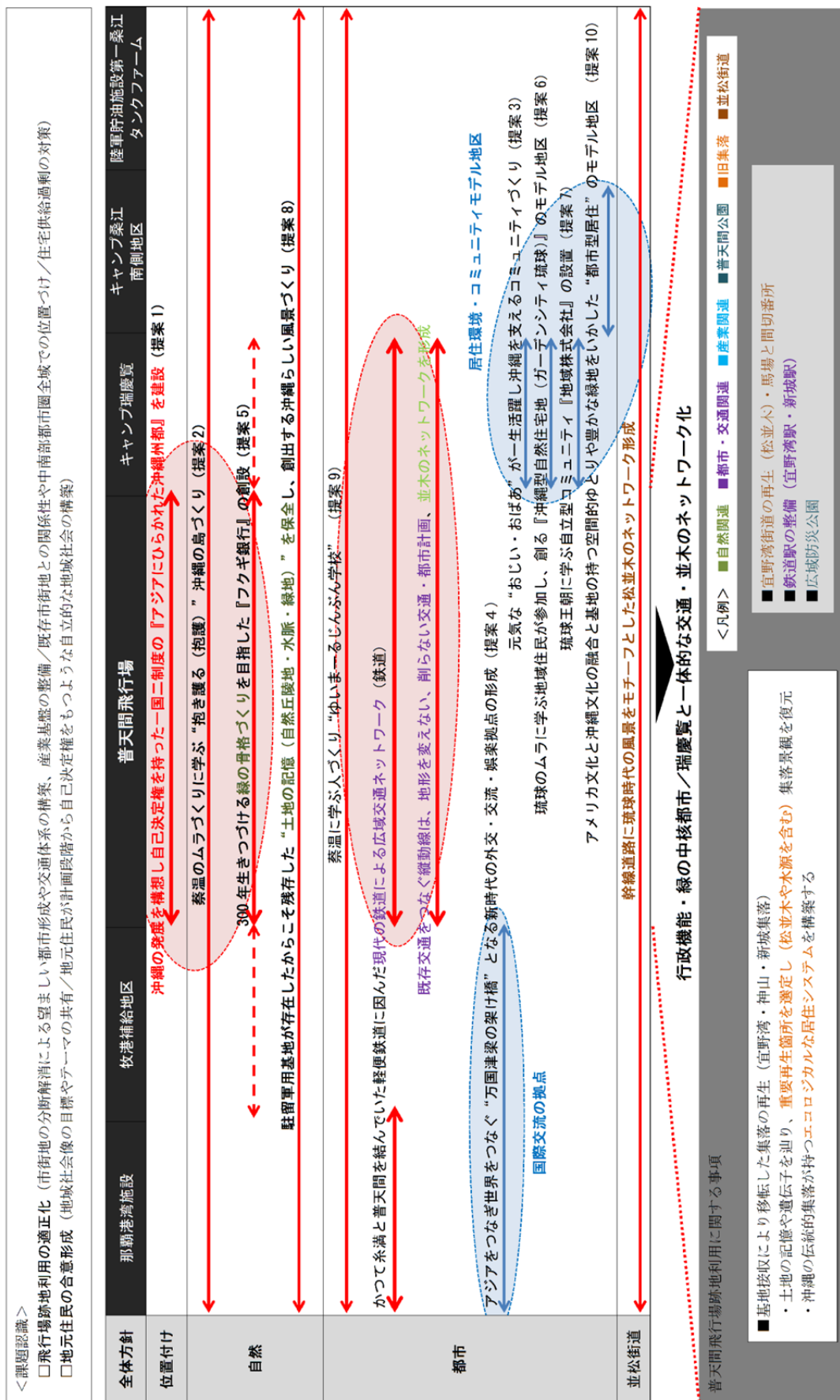


図 3-20 「沖繩が目指すべき『アジアにひらかれた成熟地域社会』を実現する 10 の提案！」
 提案のポイント

⑤佳作_2「記憶が残る街・住み続けられる街・寄り道したくなる街」



沖川の新たな発展につなげる大規模基地巡遊動地利用提案コンペ

記憶が残る街・住み続けられる街・寄り道したくなる街

街のつくり方を語る

沖城本島中層階級の都市構造は、東京やパリのなどの同心円状の都市構造とは異なり、連続的な街形（狭長・コナベーション）となっており、そのための無秩序な開発が特徴として、良好な都市構造を形成するため、都市計画の計画・設計が必要である。

土地利用の活性化を促す

沖城本島中層階級の都市構造は、東京やパリのなどの同心円状の都市構造とは異なり、連続的な街形（狭長・コナベーション）となっており、そのための無秩序な開発が特徴として、良好な都市構造を形成するため、都市計画の計画・設計が必要である。

土地利用の活性化を促す

交通渋滞の原因

その前は、計画も中心とした道路網、建築規制、都市構造、土地利用の制限を軸としたもので、道路は道路を軸に、放射状・環状・格子状の構造が多かった。車の増加に伴って、道路の渋滞が多くなり、歩行者の歩行が困難になり、自転車やバスなどの公共交通機関の利用が難しくなり、都市の活性化が阻害されている。

新しい沖城の交通体系

そこで交通渋滞を解消するため、新しい交通体系を考案する必要があります。その鍵は、沖城本島の中心部に多層階級の交通体系を構築し、放射状と環状の道路を軸とした交通体系を構築することです。放射状の道路は、交通体系を軸として、歩行者の歩行が容易になり、自転車やバスなどの公共交通機関の利用が容易になり、都市の活性化が促進されます。

交通渋滞の原因

その前は、計画も中心とした道路網、建築規制、都市構造、土地利用の制限を軸としたもので、道路は道路を軸に、放射状・環状・格子状の構造が多かった。車の増加に伴って、道路の渋滞が多くなり、歩行者の歩行が困難になり、自転車やバスなどの公共交通機関の利用が難しくなり、都市の活性化が阻害されている。

新しい沖城の交通体系

そこで交通渋滞を解消するため、新しい交通体系を考案する必要があります。その鍵は、沖城本島の中心部に多層階級の交通体系を構築し、放射状と環状の道路を軸とした交通体系を構築することです。放射状の道路は、交通体系を軸として、歩行者の歩行が容易になり、自転車やバスなどの公共交通機関の利用が容易になり、都市の活性化が促進されます。

交通渋滞の原因

その前は、計画も中心とした道路網、建築規制、都市構造、土地利用の制限を軸としたもので、道路は道路を軸に、放射状・環状・格子状の構造が多かった。車の増加に伴って、道路の渋滞が多くなり、歩行者の歩行が困難になり、自転車やバスなどの公共交通機関の利用が難しくなり、都市の活性化が阻害されている。

新しい沖城の交通体系

そこで交通渋滞を解消するため、新しい交通体系を考案する必要があります。その鍵は、沖城本島の中心部に多層階級の交通体系を構築し、放射状と環状の道路を軸とした交通体系を構築することです。放射状の道路は、交通体系を軸として、歩行者の歩行が容易になり、自転車やバスなどの公共交通機関の利用が容易になり、都市の活性化が促進されます。

沖城の新たな発展につなげる大規模基地巡遊動地利用提案コンペ

作品提案者名：金城正紀

図 3-21 「記憶が残る街・住み続けられる街・寄り道したくなる街」提案内容 (1/4)



図 3-22 「記憶が残る街・住み続けられる街・寄り道したくなる街」提案内容(2/4)

記憶が残る街・住み続けられる街・寄り道したくなる街 提案内容(3/4)

市民によるまちづくり

それは、市民の主体的な活動により、その街に記憶が残り、住み続けられる街、寄り道したくなる街、住み続けられる街、寄り道したくなる街を実現するための提案です。

市民によるまちづくりの目的は、市民の主体的な活動により、その街に記憶が残り、住み続けられる街、寄り道したくなる街を実現することです。

市民によるまちづくりの具体的な内容は、市民の主体的な活動により、その街に記憶が残り、住み続けられる街、寄り道したくなる街を実現することです。

マルチアルバーンモデル

マルチアルバーンモデルとは、市民の主体的な活動により、その街に記憶が残り、住み続けられる街、寄り道したくなる街を実現するための提案です。

マルチアルバーンモデルの具体的な内容は、市民の主体的な活動により、その街に記憶が残り、住み続けられる街、寄り道したくなる街を実現することです。

生物多様性と地下水脈保全を推進

生物多様性と地下水脈保全を推進するための提案です。

生物多様性と地下水脈保全を推進するための具体的な内容は、市民の主体的な活動により、その街に記憶が残り、住み続けられる街、寄り道したくなる街を実現することです。

市民によるまちづくり

市民によるまちづくりの具体的な内容は、市民の主体的な活動により、その街に記憶が残り、住み続けられる街、寄り道したくなる街を実現することです。

暮らしのまちづくり

暮らしのまちづくりの具体的な内容は、市民の主体的な活動により、その街に記憶が残り、住み続けられる街、寄り道したくなる街を実現することです。

暮らしのまちづくり

暮らしのまちづくりの具体的な内容は、市民の主体的な活動により、その街に記憶が残り、住み続けられる街、寄り道したくなる街を実現することです。

暮らしのまちづくり

暮らしのまちづくりの具体的な内容は、市民の主体的な活動により、その街に記憶が残り、住み続けられる街、寄り道したくなる街を実現することです。

暮らしのまちづくり

暮らしのまちづくりの具体的な内容は、市民の主体的な活動により、その街に記憶が残り、住み続けられる街、寄り道したくなる街を実現することです。

暮らしのまちづくり

暮らしのまちづくりの具体的な内容は、市民の主体的な活動により、その街に記憶が残り、住み続けられる街、寄り道したくなる街を実現することです。

暮らしのまちづくり

暮らしのまちづくりの具体的な内容は、市民の主体的な活動により、その街に記憶が残り、住み続けられる街、寄り道したくなる街を実現することです。

図 3-23 「記憶が残る街・住み続けられる街・寄り道したくなる街」提案内容(3/4)

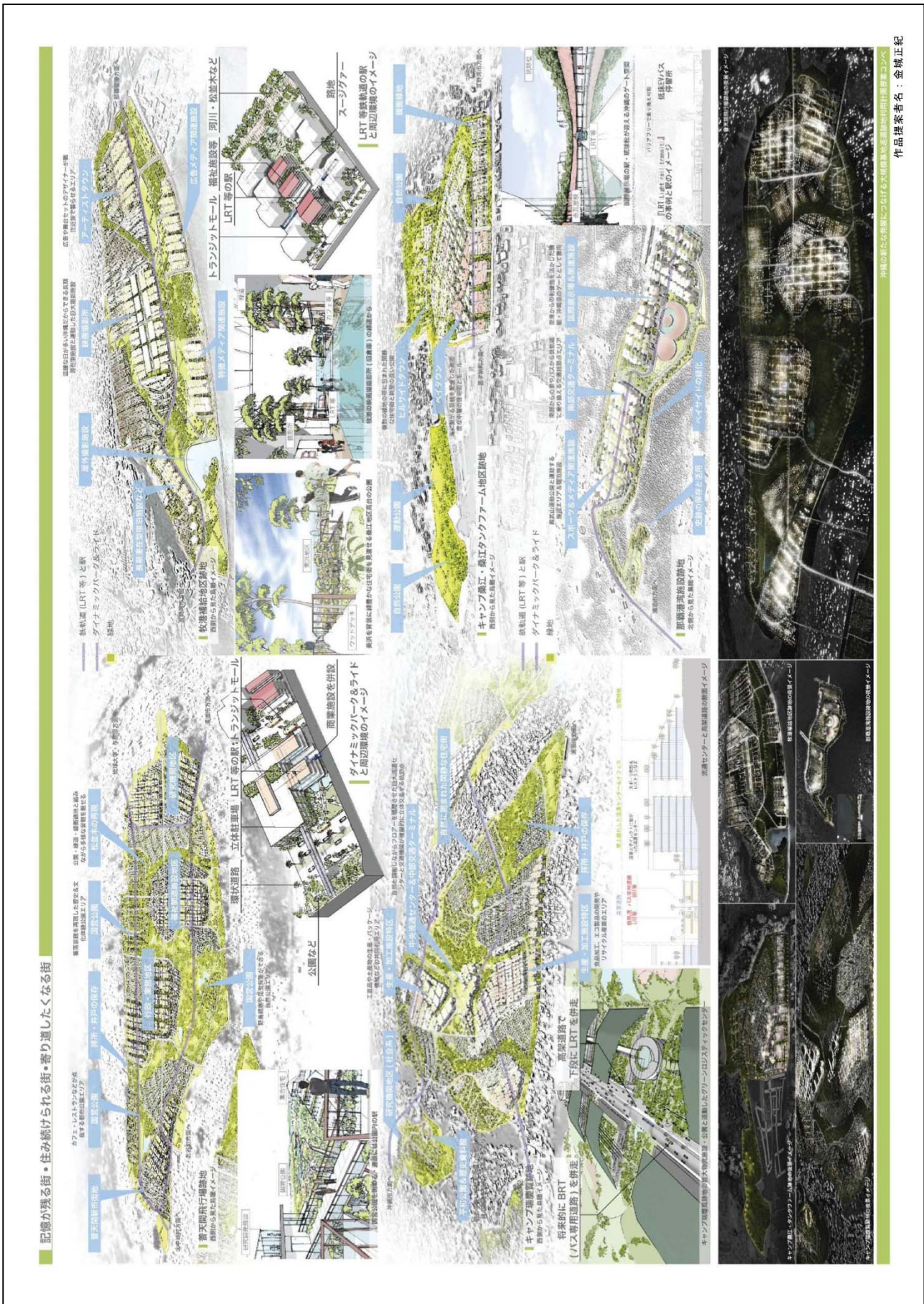


図 3-24 「記憶が残る街・住み続けられる街・寄り道したくなる街」提案内容(4/4)

作品提案者名：金城正記

出場の前はなを参照しよう

■提案のポイント

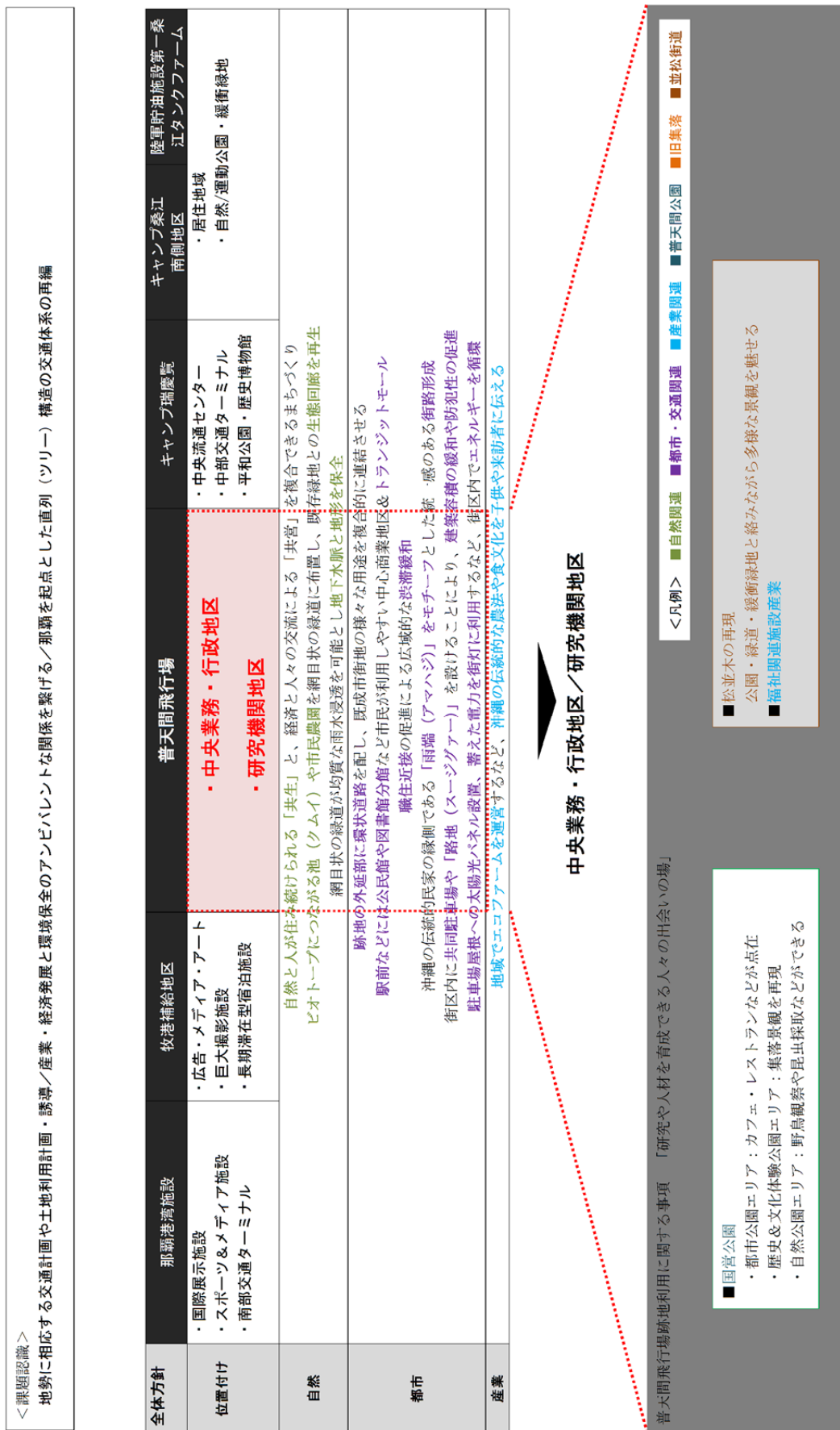


図 3-25 「記憶が残る街・住み続けられる街・寄り道したくなる街」提案のポイント

(2) コンペ 79 作品の提案内容

全てのコンペ作品についても提案内容をカテゴリーごとに分類した。

また、全体計画の中間取りまとめとコンペ作品で、共通の内容（赤文字）について抽出した。

表 3-1 コンペ 79 作品の提案内容 (1/12)

大分類		普天間基地跡地の位置づけ	自然	
中分類			水環境	緑
全体計画の中間取りまとめ			<ul style="list-style-type: none"> 湧水群、大山湿地、喜友名泉(チュンナガー)等が一体となった水循環の保全 湧水量の維持に向けて雨水地下浸透を促進 地下水涵養の仕組み解明とあわせた水収支シミュレーション等に基づく、雨水排水施設や土地利用誘導(敷地内浸透) 汚染水の地下浸透の防止 小河川や排水路の水質改善 地下水や雨水などの貯留水を循環利用 ⇒公園灌漑/水面の創出/冷熱の供給 田芋畑における営農の継続や生物の生息・生育環境の保全に配慮した水路網の整備等 	<ul style="list-style-type: none"> 「施設緑地」(公園等)の適用 「地域性緑地」(風致地区や地区計画等による敷地内緑化等)の適用 幹線道路など沿道空間の緑化 土地の起伏を活かした、斜面等の緑化 西側斜面緑地、大山湿地、キャンプ瑞慶覧など跡地内外に跨る区域を一体に保全整備 来住者誘致へ向けた緑豊かな憩いの場となる公園の整備 御樹林等の既存樹林の保全を中核とし生態系ネットワークの形成 現状保存の対象として選定された重要道跡の内、公共施設としての維持・管理に期待され、優れた風景づくりにつながるものについては、公園等として整備
コンペ結果	提案名称			
最優秀賞	万国津梁の国 —新沖縄の実現		<ul style="list-style-type: none"> 水循環の保全(水源涵養林の再生、溜池等) 	<ul style="list-style-type: none"> 水と緑の亜熱帯庭園都市 沖縄ならではの郷土の緑を再生 郷土の森(琉球ナショナルパーク) 緑のネットワーク(LRT沿道の緑でつなぐ) 開発に合わせて立体的に緑を増殖させる
優秀賞	“麗しの海の邦”と“まちづくりマネジメント”			<ul style="list-style-type: none"> かくれた水みち(地下水脈)の地紋となる緑の配置
二次作品	沖縄が目指すべき「アジアにひらかれた成熟地域社会」実現する10の提案			<ul style="list-style-type: none"> 県民1人1本のオーナー木を育てる。 基地跡地の新たな緑地づくりに活用する。
二次作品	記憶が残る街・住み続けられる街・寄り道したくなる街			<ul style="list-style-type: none"> ビオトープを設け更にそれにつながる池や市民農園を網目状の緑道に布置し、既存緑地との生態回廊を再生する 塵上緑化
二次作品	アジアの成長を呼び込み、域内産業を形成する沖縄新社会資本戦略的整備～風水空間に支えられた先端技術が交流を生み出す、過去と未来のハイブリッド都市～			<ul style="list-style-type: none"> 自然度の高い緑地を残すことで、静かな住宅街を形成することを目標とする。
一次作品	東・東南アジアの要としての沖縄の礎となる自然と人にやさしい街づくり	新たな都市の拠点地域(広域行政・国際交流・観光・産業振興など)		<ul style="list-style-type: none"> 既存の緑地を生かす 道路の緑化
一次作品	琉球回廊			<ul style="list-style-type: none"> 亜熱帯性の森林を甦らせる
一次作品	琉球グリーンライフ創出プロジェクト			<ul style="list-style-type: none"> 亜熱帯性の森林を甦らせる
一次作品	「まちづくり信託」公社を中心とした跡地利用計画の提案			
一次作品	開発から修復へ ～つながりのあるまちづくり～			<ul style="list-style-type: none"> 緑のネットワークの構築による環境負荷の軽減と自然環境の修復
一時作品	まざってひろがるOKINAWA			
一次作品	琉球森城を創る			<ul style="list-style-type: none"> エネルギーや食糧を生産する機能を持つ緑のネットワークの形成 ウォーターフロントの緑づくり
一次作品	アジアのゲートウェイ ＝創造的環境都市 OVAL CITY			<ul style="list-style-type: none"> 緑地の保全・大規模公園の整備
一次作品	真にふるさとと呼べる沖縄のまちづくりのために。		<ul style="list-style-type: none"> 国営公園による文化財、湧泉の保全 	<ul style="list-style-type: none"> 緑地再生事業(既存市街地にわずかに残された緑地を拡大)
一次作品	安全・安心で便利な潤いのある街		<ul style="list-style-type: none"> 湧泉、雨水を活かした水辺空間を創出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 緑地の保全 ビオトープ
一次作品	OKINAWA SCALE ～沖縄島の「身の丈まちづくり」～		<ul style="list-style-type: none"> 地下水系の保全 	<ul style="list-style-type: none"> 石灰岩台地と段丘部に広がる樹林地、文化財などの保全
一次作品	回復の際			
一次作品	持続可能な開発 沖縄再生プロジェクト		<ul style="list-style-type: none"> 再生水の利用 海岸の再生 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの都市化、開発で失われた緑、地形などの自然を再生し、都市環境を改善する。
一次作品	水と共に棲む都市		<ul style="list-style-type: none"> 河と湧水、水資源を再生、活用 LRT水浄化システム 	
一次作品	万国乃津梁 アジアは沖縄で世界と交わる			<ul style="list-style-type: none"> 中心部分が返還されたときに緑の豊かな場所にするために森を整備していく

表 3-2 コンペ 79 作品の提案内容 (2/12)

大分類		都市		
中分類	基幹交通	都市構造	エネルギー	
全体計画の中間取りまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 主要幹線道路としての交通機能の強化 ⇒「中部縦貫道路」 「宜野湾横断道路」 周辺市街地等の沿道まちづくりとの共生 宜野湾市の幹線道路網や沖縄自動車道との結節点の整備 市街地環境に及ぼす影響の緩和、景観等へ配慮 跡地と周辺市街地の連携に向けたシンボル道路(地区幹線道路)を配置 ⇒国道330号と(仮称)普天間公園 鉄軌道を含む新たな公共交通軸の計画づくり(広域集客拠点や居住ゾーンと近接) 	<ul style="list-style-type: none"> 都市幹線道路の整備 (主要幹線道路との連携を強化) 地区幹線道路の整備 (都市幹線道路を補完し、土地利用の誘導や周辺市街地との一体化に向けたシンボリックな空間の創出を目標) 再開発等の事業化に必要な用地を計画的に供給、移転元の市街地の再編等を促進 周辺市街地からの利用に配慮した公園の整備 小・中学校やコミュニティ施設、共同基地整備を含めた基地の再配置 市民の新しい生活拠点となる市民センター整備を推進(市庁舎を含む市民利用施設の移設・新設や交流の場となる市民広場の整備) 	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電 省エネ住宅の導入 電力会社との共同によるスマートシティ・スマートグリッド・マイクログリッド等の整備) 低炭素や資源循環をテーマとした先進的モデル地域とした総合的な研究を推進 	
コンペ結果	提案名称			
最優秀賞	万国津梁の国 —新沖縄の実現	<ul style="list-style-type: none"> 58号線へのLRT ゆいれーるとの連携強化、フィーダー輸送 		<ul style="list-style-type: none"> 沖縄の気候風土に合ったパッシブで自律的なエコ・スマートシティ(パッシブ建築) 再生可能エネルギーや地域熱電共有センター設置 スマートインフラの整備
優秀賞	“麗しの海の邦”と“まちづくりマネジメント”		<ul style="list-style-type: none"> 埋立地+基地跡地+既存市街地の一体的再編 地形や地質に基づいた機能配置 	<ul style="list-style-type: none"> 並松海道の復原にあわせてエネルギールートを整備。エネルギーコミュニティが繋がりエネルギーの相互融通を行う。 エネルギーコミュニティの形成
二次作品	沖縄が目指すべき「アジアにひらかれた成熟地域社会」実現する10の提案		<ul style="list-style-type: none"> アメリカ文化と沖縄文化の融合と基地の持つゆとりや豊かな緑地を活かした都市型居住のモデル地区 	
二次作品	記憶が残る街・住み続けられる街・寄り道したくなる街	<ul style="list-style-type: none"> 自家用車の流入を抑制して歩行者と公共交通を重視した「トランジットモール」で駅と既存市街地結び、利便性が高く歩きやすいまちづくりを促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の多様な既存の環境要素と、新しい跡地内の環境要素をバランスよく連結させるマルチブルー・パンモデルを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーを地区内循環できる街「沖縄型スマート地区」を設け、街区内エネルギーを循環させ余った電力は既存市街地を含めたゾーン間で相互補完できるようなシステムを設ける。 太陽光パネル
二次作品	アジアの成長を呼び込み、域内産業を形成する沖縄新社会資本戦略的整備～風水空間に支えられた先端技術が交流を生み出す、過去と未来のハイブリッド都市～		<ul style="list-style-type: none"> 鉄道の駅が建設されることから、県立中央図書館や私立中学・高校の移転を行い、広域から人を呼び込む文教都市を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 浄化センターが近くに隣接することから、そこに集められる下水から、バイオガスを集塵後、ガスタービンで発電する施設を計画する
一次作品	東・東南アジアの要としての沖縄の礎となる自然と人にやさしい街づくり	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通が導入可能な空間を有する幹線道路 公共交通として、BRTや将来的にはLRTを導入 副道には、超小型のモビリティの走行空間 コミュニティバス 沖縄自動車道にインターチェンジの新設 	<ul style="list-style-type: none"> 3種都市構造の形成 クラスター状の低層の住宅地 歩いて暮らす街づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電などの再生可能エネルギーの発電施設の設置
一次作品	琉球回廊			
一次作品	琉球グリーンライフ創出プロジェクト		コンパクトシティ	グリーンエネルギーと水実証実験施設の設置
一次作品	「まちづくり信託」公社を中心とした跡地利用計画の提案		<ul style="list-style-type: none"> 那覇港湾施設における既設倉庫群の再生 緑豊かなハウジングエリア 	
一次作品	開発から修復へ ～つながりのあるまちづくり～	<ul style="list-style-type: none"> LRTの導入 LRTの終点にトランジットステーションを設け、自家用車の都市区域内への乗り入れを抑制 	<ul style="list-style-type: none"> 郊外型住居モデル 中南部都市圏の核となるまちづくり 医療施設と学校施設の整備 	
一時作品	まざってひろがるOKINAWA			
一次作品	琉球森城を創る		用途・機能は複合混合した、地産地消を目指すことの出来る、適正な大きさのコミュニティ	メガソーラー の設置
一次作品	アジアのゲートウェイ ＝創造的環境都市 OVAL CITY	<ul style="list-style-type: none"> オーヴァーリングを中心に、エネルギー、モビリティ、情報ネットワーク、緑化を有機的に一体化した新しい交通システムを整備 	<ul style="list-style-type: none"> 平坦な高台で、東西に海を見渡せるプライムロケーション 自然環境を最大限に活かした職・住・商の新しい都市環境の創出 世界に誇れる環境モデル都市としての仕組 ルールを構築し、「沖縄グリーン・イニシアティブ」を制定する 	<ul style="list-style-type: none"> 緑化された公園や遊歩道、各種建物に太陽光発電システム等を配備し、街全体としてのクリーンエネルギー率を高める
一次作品	真にふるさとと呼べる沖縄のまちづくりのために。	<ul style="list-style-type: none"> 県営鉄道嘉手納線のLRTによる復元事業 		<ul style="list-style-type: none"> バイオマス発電
一次作品	安全・安心で便利な潤いのある街		<ul style="list-style-type: none"> ウォーターフロントインフラ整備(海岸線の再生、歩道の設置、人工ビーチ利用) 	<ul style="list-style-type: none"> 腐敗・粗雑ゴミでバイオガスを生成しエネルギー利用
一次作品	OKINAWA SCALE ～沖縄島の「身の丈まちづくり」～	<ul style="list-style-type: none"> 跡地に、環状のトラム等路面電車ルートとパークアンドランドやミニバスなどの人と環境にやさしい交通システムづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 自然、歴史、文化の保全再生を基礎としたまちづくり 既存の倉庫群の再利用 	
一次作品	修復の際	<ul style="list-style-type: none"> R81及びR330の線形を変更し、広範な市街地に効果的かつ無理なく導入できるBRTレーンとBRT駅を設置する 	<ul style="list-style-type: none"> 基地周辺の際を起点とした跡地利用で緩やかに都市全体が修復する(跡地外から公共施設や住宅が跡地内に移転し、なおかつ跡地内外が一体となった集落が形成される) 	
一次作品	持続可能な開発 沖縄再生プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 各基地跡地や既存市街地と有機的に連結する。(緑地、海岸、緑道、モノレール、道路、情報とのネットワーク) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域特性を生かした計画的街づくり 他にない「魅力ある都市づくり」 	<ul style="list-style-type: none"> 再生エネルギー ゼロエミッションへの取り組み
一次作品	水と共に進む都市		<ul style="list-style-type: none"> 水の資源を享受する環境モデル都市 環境配慮とともに、そこで暮らす様々な生命への快適性をデザイン 	
一次作品	万国乃津梁 アジアは沖縄で世界と交わる	<ul style="list-style-type: none"> 新道路の開通 ゆいれーるは延伸され返還される各基地につながる 		

表 3-3 コンペ 79 作品の提案内容 (3/12)

大分類	都市		産業	
	防災	まちづくり	雇用創出・失業対策	付加価値産業
全体計画の中間取りまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 地下空間上部における建築物敷地等としての安全確保(地下空間誘導・土地利用誘導など) 地域資源として地下空間の保全・活用 	<ul style="list-style-type: none"> 「(仮)歴史まちづくりゾーン」並松街道や旧集落等を中心とし、隣接する既存樹林地や道跡を含む一帯について、「宜野湾」のまちなちがみ見えるまちづくりを目標 ユニバーサルデザインと都心共同住宅の導入による「定住人口」の確保 来訪者の誘致を目標としたゆとりある敷地の供給、コミュニティづくり、緑豊かな環境づくり等を重視した住宅地開発 「戦略的通信コスト低減化支援事業」や「沖縄GX利活用促進事業」の活用 		<ul style="list-style-type: none"> 基幹産業等の集積地(リサーチパーク等)を形成するため県内外からの機能誘致 ⇒リゾートコンベンション産業 医療・生命科学産業 環境エネルギー産業 西海岸コンベンションリゾート開発との連携 西側斜面緑地の緩衝機能や段丘部からのオーシャンビューを活用
コンペ結果	提案名称			
最優秀賞	万国津梁の国 - 新沖縄の実現	・海外交流	<ul style="list-style-type: none"> ・普天間をリージョナルコア(広域行政中核を配置) ・多極連携型都市圏(分散型都市構造、高密度回遊) ・行政サービスの集約 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済競争力の優位性のある新たな産業創出 ・最先端の研究開発拠点整備(産学連携ナレッジパーク)、大学等の学術研究機関の誘致
優秀賞	“麗しの海の邦”と“まちづくりマネジメント”	<ul style="list-style-type: none"> ・BID制度を活用した継続的なまちづくり ・まちづくり会社の設立・創出 ・音楽・語り等の伝統文化を国際交流に活用 		<ul style="list-style-type: none"> ・高付加価値農産物開発(フードバレー:沖縄ならではのアグリビジネス) ・農地付普天間公園、露地・植物工場の風景 ・健康産業拠点 ・医療回廊(長寿ブランド)
二次作品	沖縄が目指すべきアジアにひらかれた成熟地域社会」実現する10の提案	・国際的な災害援助、防災公園	<ul style="list-style-type: none"> ・基地跡地に高齢者や女性が活躍できる仕事場やポランティアの場を必ず組み込む 	
二次作品	記憶が残る街・住み続けられる街・寄り道したくなる街	市民によるまちづくり		<ul style="list-style-type: none"> ・たとえば、撮影所などを設けると、小道具・衣装製作所やメディア産業、そこで働く人の生活を支える産業が派生する。
二次作品	アジアの成長を呼び込み、域内産業を形成する沖縄新社会資本戦略的整備～風水空間に支えられた先端技術が交流を生み出す、過去と未来のハイブリッド都市～		<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー産業という安定した産業の雇用を作るのが可能 	
一次作品	東・東南アジアの要としての沖縄の礎となる自然と人にやさしい街づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・防災活動拠点の設置 ・首都機能のバックアップ機能の導入 		<ul style="list-style-type: none"> ・基地返還跡地、海外へのアクセシビリティを活用して産業などの機能を導入 ・アジアへの近接性を生かした企業等の誘致 ・歩行環境の整備やコミュニティバスによるきめ細かい公共交通サービスなど
一次作品	琉球回廊			<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄アートのブランド確立 ・フットパス事業
一次作品	琉球グリーンライフ創出プロジェクト		<ul style="list-style-type: none"> ・土地信託方式等による地権者の事業参加可能性の拡大 ・グンク群巡回リゾート 	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア圏の国際レベル級の研究機関の設立
一次作品	「まちづくり信託」公社を中心とした跡地利用社団の提案	防災研究機関を立地	<ul style="list-style-type: none"> ・「まちづくり信託」公社による地権者の合意形成とまちづくりのコントロール 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT産業の拠点、カフェテリア
一次作品	開発から修復へ ～つながりのあるまちづくり～			<ul style="list-style-type: none"> 医療施設を核とした高機能リゾートの提案
一時作品	まざってひろがるOKINAWA		<ul style="list-style-type: none"> ・基地跡地を「まざってひろがる」場所に ・倉庫跡を利用して、沖縄文化を発信する拠点 ・コミュニケーションスポットの導入 ・留学生の受け入れ、日本人向けの語学学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・マブヤーアニメパーク ・希望者が誰でも出店できるゆんたくカフェ(売上の一部が公園の管理・運営資金に)
一次作品	琉球森城を創る		<ul style="list-style-type: none"> ・コンベンションセンター ・クリエイティブビレッジの開設 	<ul style="list-style-type: none"> ・持続的エネルギーなどの研究開発の深化 ・開発された適正技術をアジアアフリカ地域の途上国の国づくりに貢献させる
一次作品	アジアのゲートウェイ =創造的環境都市 OVAL CITY		<ul style="list-style-type: none"> ・創造的環境都市デザインセンター(地域住民のための活動拠点、高度防災連携センター、環境マネジメントセンター) ・新しいコミュニティ形成、先進の防災システム、さまざまなまちづくりプログラムを推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ・新産業リサーチパークを整備し、人材・技術の国際的な交流と、新産業インキュベーションを活性化させる
一次作品	真にふるさとと呼べる沖縄のまちづくりのために。			
一次作品	安全・安心で便利な潤いのある街	・防災避難地の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・自然と暮らしが共生し、様々な人々が寄り添う「あたいたい持続的なまち」がたちあがられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生きがいづくり(農園を整備し、自立、再生の拠点にする) ・園芸美術館
一次作品	OKINAWA SCALE ～沖縄島の「身の丈まちづくり」～	<ul style="list-style-type: none"> ・高台、湧水、緑のネットワーク、病院、学校などと連携した島の防災拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ・城間集落の復興と住環境改善 ・沖縄の戦後の証として謝河集落を残していく。 	
一次作品	修復の際		<ul style="list-style-type: none"> ・基地周囲の跡からの展開 ・BRT駅敷外には空き地を利用して乗り合いステーションを置く。これにより利用者だけでなく街の出入りが滞留・交流できる空間とする 	
一次作品	持続可能な開発 沖縄再生プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・防災都市に向けての基地跡地利用計画 ・既成市街地の津波、地震対策に向けて再生遊歩道、遊歩道の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・目指すは自立経済の「持続可能な都市」 ・無いとままりのあるコミュニティをつくる 	
一次作品	水と共に棲む都市		<ul style="list-style-type: none"> ・地下水資源の豊富なことをいかしアースチューブや湧水空間機能など持続可能な新しい都市デザインを研究する環境都市モデルとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境エネルギー産業 ・MICE施設・産業
一次作品	万国津梁 アジアは沖縄で世界と交わる		<ul style="list-style-type: none"> ・Art EXPOからなる街 	<ul style="list-style-type: none"> ・アーティスト村における交流 ・創産業の開始

表 3-4 コンペ 79 作品の提案内容 (4/12)

大分類	普通間公園	旧集落	並松街道
中分類			
全体計画の中間取りまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 振興拠点ゾーンの中心施設として沖縄振興の拠点やまちづくりの原動力として育てる 災害時には広域防災拠点としての機能(災害時のライフラインの確保・救援活動拠点の整備等) 	<ul style="list-style-type: none"> 旧宜野湾・神山・新城集落の区域を主として、歴史的な風景や民族文化の再生に向けた住宅地開発 旧集落の地権者や新しい来住者を募り、今日の生活利便を確保しつつ、伝統的な集落空間の姿(区画割、屋敷林、街並み等)や民族文化(編引き、闘牛、エイサー等)の再生のあり方を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 跡地⇒松並木道を往時の幅員・ルートで、緑道等として再生 周辺市街地⇒「並松街道」の全体像が見える空間づくりを推進 「普天満宮参詣道」としての史跡指定・管理を行うことを目標として整備手法や普天満宮と結ぶ区間等の再生を検討
コンペ結果	提案名称		
最優秀賞	万国津梁の国 —新沖縄の実現	○固有の生態系の再生により 琉球時代の史跡残る大規模森林公園	○郷土の森に伝統集落を復元し、 歴史文化を発信 。
優秀賞	“麗しの海の邦”と“まちづくりマネジメント”	○植物工場による新しい農の提案	○並木沿いにスマートビレッジを形成
二次作品	沖縄が目指すべき「アジアにひらかれた成熟地域社会」実現する10の提案		○土地の記憶、遺伝子をたどり重要復元箇所を選定して集落景観の復元を行い伝統的集落を持つエコロジカルな居住システムの提案
二次作品	記憶が残る街・住み続けられる街・寄り道したくなる街	○(記載あり)	○集落景観を再現した 歴史・文化体験エリア の提案
二次作品	アジアの成長を呼び込み、域内産業を形成する沖縄新社会資本戦略的整備～風水空間に支えられた先端技術が交流を生み出す、過去と未来のハイブリッド都市～		○王朝時代の歴史を感じられる歩行空間を作り出す。日差しをよけることもできる。 ・地主の復元意向の強かった「並松街道」(琉球王朝時代に王族が普天間神宮まで参拝するときに使われていた道)を復元し、王朝時代の歴史を感じられる歩行空間を作り出す。
一次作品	東・東南アジアの要としての沖縄の礎となる自然と人にやさしい街づくり	○ 防災機能を兼ね備えた世界平和をアピールする公園、伝統文化・観光拠点の複合施設と連携した沖縄を体験できる公園	・ 伝統文化・生活様式を後世に伝え、観光の拠点にもなる複合施設
一次作品	琉球回廊	○平和の願い。自然豊かなまちづくり	
一次作品	琉球グリーンライフ創出プロジェクト	○都市型エリア(観光・レクリエーション)	
一次作品	「まちづくり信託」公社を中心とした跡地利用計画の提案	○国際的平和機関と東アジアの防災研究機関などを備えた 国際交流拠点都市	
一次作品	開発から修復へ ～つながりあるまちづくり～	○特に重要な資源の洞窟や水系を保全し、道路や公園として都市の自由空間とし、ネットワークの形成	
一時作品	まざってひろがるOKINAWA		
一次作品	琉球森城を創る		
一次作品	アジアのゲートウェイ ＝創造的環境都市 OVAL CITY	○「付加価値型緑化システム」を整備し、現市街地・住宅地にも新たな緑地、環境保全・活用プロジェクトを推進	
一次作品	真にふるさとと呼べる沖縄のまちづくりのために。	○国営公園の新設事業。 沖縄らしい町並みで生活体験できるテーマパーク	・宜野湾・神山集落モデル街区先行事業 ○100m幅員道路を宜野湾のシンボルに 宜野湾並松街道の復元事業
一次作品	安全・安心で便利な潤いのある街		
一次作品	OKINAWA SCALE ～沖縄島の「身の丈まちづくり」～		○普天満宮への 並松参詣道歴史的景観の回復
一次作品	修復の際	○跡地の中央部は基地の記憶を残す公園とする	○地形的になだらかにつながる飛行場東側は、被接収集落である中原、神山、宜野湾の現集落と元集落を一体的に計画 ○普天間街道の 松並木 を歩行者道として再生
一次作品	持続可能な開発 沖縄再生プロジェクト	○緑地のほか、 自然の水脈、洞窟や文化財、遺跡も多い ので、自然に恵まれた広い公園	○昔の 松並木 や 集落も再現した街並 を復元。
一次作品	水と共に棲む都市		○鉄軌道路線に並列して 並松街道 を復元
一次作品	万国乃津梁 アジアは沖縄で世界と交わる		○ 旧街道の復元

表 3-5 コンペ 79 作品の提案内容 (5/12)

大分類		普天間基地跡地の位置づけ		自然	
中分類				水環境	緑
全体計画の中間取りまとめ				<ul style="list-style-type: none"> 湧水群、大山湿地、喜友名泉(チュンナガー)等が一体となった水循環の保全 湧水量の維持に向けて雨水地下浸透を促進 地下水涵養の仕組み解明とあわせて水収支シミュレーション等に基づく、雨水排水施設や土地利用誘導(敷地内浸透) 汚染水の地下浸透の防止 小河川や排水路の水質改善 地下水や雨水などの貯留水を管理利用 公園溜水/水面の創出/冷熱の供給 田手畑における営農の継続や生物の生息・生育環境の保全に配慮した水路網の整備等 	<ul style="list-style-type: none"> 「施設緑地」(公園等)の適用 「地域性緑地」(風致地区や地区計画等による敷地内緑化等)の適用 幹線道路など沿道空間の緑化 土地の起伏を活かした、斜面等の緑化 西側斜面緑地、大山湿地、キャンパ瑞慶覧など跡地内外に跨る区域を一体に保全整備 来住者誘致へ向けた緑豊かな憩いの場となる公園の整備 御蔵林等の既存樹林の保全を中核とし生態系ネットワークの形成 現状保存の対象として選定された重要遺跡の内、公共施設としての維持・管理に期待され、優れた風景づくりにもつながるものについては、公園等として整備
コンペ結果		提案名称			
選外	普天間基地返還跡地「基地を平和の象徴へ」未来都市はごころも園 仮名称	農業と福祉と観光が融合した六次産業のモデルとなる公園			・基地全体を公園とし自然の森を配置
選外	沖縄国際先進環境都市構想 ～環境技術立派沖縄を目指して～	メガソーラー地区・人工湖など高度自然利用都市		・河川、湧水を保全し、人工湖や水路を整備し、気温調節機能を有効活用	
選外	緑を育て、エネルギー創出と二酸化炭素排出を抑制するコミュニティファーム	メガソーラーパーク			
選外	映像・映画産業を基地返還跡地利用に誘致する提案				
選外	跡地利用のパークゴルフ場の造成について				・ゴルフ場造成による芝の管理
選外	ネクスト オキナワ ～米軍のベースからなる更なる発展のベース～	「フテンマ ピース ガーデンパーク」周囲に静寂と自然を提供する大規模公園や長期滞在型医療・健康施設			
選外	個性の光る星を結び、輝く星座に。			「森の川」、耕作地への水源確保	緑地の保全、公園緑地の配置、町並木の復活
選外	理想とする愛と夢のあるまちづくり	Futenma Hills			
選外	沖縄の魅力の世界へ！inOKINAWAサーキット	沖縄サーキット場			
選外	琉球回路/沖縄の自然と歴史から未来へつなぐ道	万国津梁の森公園			亜熱帯の森
選外	沖縄で生ききる	セントラルパーク		池、川を創出	
選外	ルーブンシティで6つの「わ」～6つの跡地と周辺地域が6つの視点でつながり、わしたウチナーぬ持続的発展を先導するために～	公園都市			・斜面緑地の保全・緑地の整備・奇跡の水田地帯を保全
選外	歴史、文化の新しい始まりに向かって				
選外	世界をリードする高齢者福祉モデル都市へ	世界トップレベルの介護従事者、医療従事者教育機関			
選外	大規模跡地返還についての跡地利用				
選外	教育、医療、保養観光施設ハブ集積でアジア誘引	大規模医療都市			
選外	世界の富裕層が長期滞在する沖縄	F1コース			
選外	「琉球グリーンライフ創出プロジェクト」沖縄の誇り高い自立と自活を目指して	多機能交流拠点都市(振興拠点)		海水淡水化事業(水資源確保プロジェクト)	在来植物の再生・森の回復
選外	ふてんまランド	大規模遊園地の本体(6つの地域連携型)			
選外	愛・沖縄～そして世界へ～	国際エコシティ			
選外	ずーっと大好きおきなわ	都市型農業地域			緑地整備
選外	琉球の自立	サッカースタジアム			
選外	未来の県民・子供たちが誇りに思う跡地利用	世界遺産とする			
選外	「まちづくり信託公社」を中心とした跡地利用計画の提案	東アジア国際交流拠点都市			国立緑地公園の設置
選外	大規模基地返還跡地利用計画における駐車場を中心とした都市計画	緑化駐車都市			緑化公園
選外	「普天間交通結節センター」の整備を基軸とする沖縄振興施策の集大成	交通結節センター			
選外	卵の産業化を中心とした観光、医療、マリノバイオ産業の複合産業の集積させた循環型地域「オーガニックシェルター沖縄」の提案	カーボンフラット次世代型工業研究施設エリア			
選外	あるきたい まち、つながる みどり、はぐくむいのち				パークネットワークング
選外	アトチ ノチ ハレ ～本当に青い空、沖縄を目指して～	平和シンボルとしての国際的多機能大都市			
選外	郷め帰れ 世界に羽ばたく琉球の星島	「創造産業」、「学び」と「居住」ゾーン			
選外	基地のあった"場所"				林を残し、緑との共存を意識
選外	Laugh & Peace community(仮) 基本構想	エンタメ都市機能			
選外	僕らが築く沖縄の未来	OKINAWA映画村(第一言語英語特区)			
選外	大型リゾートホテルを兼ね備えた人間ドックおよびダイエット専用医療施設と、県民による、商業施設としてのカンゾ産業	大きな緑地公園と大型リゾートホテル施設			
選外	Rebuilt Expanded Central and South Okinawa(沖縄中南部発展再生)	新たな中心市街地となるガーデンシティ			
選外	OKINAWA City in a Garden 構想	city in a garden			
選外	スーヅからのまちづくり	多機能交流拠点都市 ・都市の森・うまんちゅ広場、広域防災公園・研究開発、国連機関			

表 3-6 コンペ 79 作品の提案内容 (6/12)

大分類	都市		
中分類	基幹交通	都市構造	エネルギー
全体計画の中間取りまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 主要幹線道路としての交通機能の強化 ⇒「中部縦貫道路」「宜野湾横断道路」 周辺市街地等の沿道まちづくりとの共生 宜野湾市の幹線道路網や沖縄自動車道との結節点の整備 市街地環境に及ぼす影響の緩和、景観等へ配慮 跡地と周辺市街地の連携に向けたシンボル道路(地区幹線道路)を配置 ⇒国道330号と(仮称)普天間公園 鉄軌道を含む新たな公共交通軸の計画づくり(広域集客拠点や居住ゾーンと近接) 	<ul style="list-style-type: none"> 都市幹線道路の整備 (主要幹線道路との連携を強化) 地区幹線道路の整備 (都市幹線道路を補完し、土地利用の誘導や周辺市街地との一体化に向けたシンボリックな空間の創出を目標) ・再開発等の事業化に必要な用地を計画的に供給、移転元の市街地の再編等を促進 ・周辺市街地からの利用に配慮した公園の整備 ・小・中学校やコミュニティ施設、共同墓地整備を含めた基地の再配置 ・市民の新しい生活拠点となる市民センター整備を推進(市庁舎を含む市民利用施設の移設・新設や交流の場となる市民広場の整備) 	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電 ・省エネ住宅の導入 ・電力会社との共同によるスマートシティ・スマートグリッド・マイクログリッド等の整備) ・低炭素や資源循環をテーマとした先進的モデル地域とした総合的な研究を推進
コンペ結果	提案名称		
選外	普天間基地返還跡地「基地を平和の象徴へ」未来都市はごも園 仮名称		
選外	沖縄国際先進環境都市構想 ～環境技術立県沖縄を目指して～	ガイドウェイバス	セル集合型都市(職住農学が近接)
選外	緑を育て、エネルギー創出と二酸化炭素排出を抑制するコミュニティファーム		太陽光発電、小型風力発電、小型水力発電
選外	映像・映画産業を基地返還跡地利用に誘致する提案		
選外	跡地利用のパークゴルフ場の造成について		
選外	ネクスト オキナワ ～米軍のベースからなる更なる発展のベース～		
選外	個性の光る星を結び、輝く星座に。		平和な土地のアピール、エネルギー基地
選外	理想とする愛と夢のあまづくり		高高度風力発電(上空での発電による高い発電量)
選外	沖縄の魅力を世界へ！inOKINAWAサーキット	サーキット設置による一般道路での暴走行為の軽減を期待	産業振興機能・都市機能・住居機能をトータルデザイン
選外	琉球回路/沖縄の自然と歴史から未来へつなぐ道		
選外	沖縄で生き生き		セントラルパークを中心に周囲に住宅を配置
選外	ループシティで6つの'わ'～6つの跡地と周辺地域が6つの視点でつながり、わしたウチナーぬ持続的発展を先導するために～	主要駅を跡地中心に整備し、主要駅から離れたエリアの駅と主要駅をフォロー	公園の中にまちがある都市づくり ・世界に打って出る魅力づくり
選外	歴史、文化の新しい始まりに向かって		
選外	世界をリードする高齢者福祉モデル都市へ		高齢者福祉モデル都市
選外	大規模跡地返還についての跡地利用		
選外	教育、医療、保養観光施設ハブ集積でアジア誘引		
選外	世界の富裕層が長期滞在する沖縄		長期滞在リゾート施設(FIコース、市街地化)
選外	「琉球グリーンライフ創出プロジェクト」沖縄の誇り高い自立と自活を目指して		
選外	ふてんまランド	シーバス	テーマパークの要素のある遊園地
選外	愛・沖縄～そして世界へ～		メガソーラーシステム設置
選外	ずっと大好きおきなわ		
選外	琉球の自立	国道330号線を拡大し渋滞緩和・330号線と58号線をつなぐ	
選外	未来の県民・子供たちが誇りに思う跡地利用	モノレール駅、バスターミナルを置く(渋滞緩和)	公共施設の設置・サファリパーク、熱気球産業の設置
選外	「まちづくり信託公社」を中心とした跡地利用計画の提案		
選外	大規模基地返還跡地利用計画における駐車場を中心とした都市計画	LRT	都心部のなかに緑地公園、その周囲をLRTが通り、駐車場が取り囲む
選外	「普天間交通結節センター」の整備を基軸とする沖縄振興施策の集大成	道路と都市モノレールを発展的に活かす	大型商業施設、立体駐車場、屋外駐車場を整備
選外	朝の産業化を中心とした観光、医療、マリノアイオ産業の複合産業の集積させた循環型地域「オーガニックシェルター沖縄」の提案		再生可能エネルギー関連事業 ・波力、風力発電などの発電施設と次世代型、エネルギーの実験施設
選外	あるきたい まち、つながる みどり、はぐくむいのち		・帯状都市モデル ・エリアパーキング、中心市街地形成地区、中高層集住地区 6つのアトチ
選外	アトチ ノチ ハレ ～本当に青い空、沖縄を目指して～		・第一桑江タンクファーム・キャンプ桑江南側地区・キャンプ瑞慶覧・那覇港湾施設・港巻補給地区・普天間飛行場
選外	郷ぬ帰れ 世界に羽ばたく琉球の星島	・既存のモノレールを延伸し、跡地の周囲をループするように繋ぐ。 ・街と街をシーバスやLRTを整備し主要道路の渋滞の緩和をはかる	牧港補給地区をインバウンド観光の拠点とする
選外	基地のあった"場所"		フェンスを残し、滑走路をそのまま最低限の補強をして道として活用する
選外	Laugh & Peace community(仮) 基本構想		・6跡地を4大エリアに整理 ・ネットワーク、エネルギーなどの次世代都市インフラ
選外	僕らが築く沖縄の未来		国際映画村、カジノ特区、カジノ関連施設
選外	大型リゾートホテルを兼ね備えた人間ドックおよびダイエット専用医療施設と、県民による、商業施設としてのカジノ産業		北谷～瑞慶覧跡地一帯にカジノ、普天間基地に大型リゾートホテルの建設
選外	Rebuilt Expanded Central and South Okinawa(沖縄中南部発展再生)	・モノレールと組み合わせLRTの導入、そのフィーダー交通として路線バスの導入 ・路線バスから先の個人交通として短期の簡単安価なレンタル自動車やレンタル自転車の導入	タンクファームから 自然エネルギーファーム への転換
選外	OKINAWA City in a Garden 構想		都市インフラ(経済・交通・緑地環境)と一体化する住宅整備
選外	スーヅからのまちづくり	LRT導入を軸に幹線道路、環状線道路、沖縄自動車道等と 新設道路網の整備	

表 3-7 コンペ 79 作品の提案内容 (7/12)

大分類 中分類	都市		産業	
	防災	まちづくり	雇用創出・失業対策	付加価値産業
全体計画の中間取りまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 地下空洞上部における建築物敷地等としての安全確保(地下空洞調査・土地利用誘導など) 地域資源として地下空洞の保全・活用 	<ul style="list-style-type: none"> 「(仮)歴史まちづくりゾーン」並松街道や旧集落等を中心とし、隣接する既存樹林地や遺跡を含む一帯について、「直野濱」の生い立ちが見えるまちづくりを目標 ユニバーサルデザインと都心共同住宅の導入による「足元人口」の確保 来訪者の誘致を目標としゆとりある敷地の供給、コミュニティづくり、緑豊かな環境づくり等を重視した住宅地開発 「戦略的適性コスト削減支援事業」や「沖縄GX利活用促進事業」の活用 		<ul style="list-style-type: none"> 基幹産業等の集積地(リサーチパーク等)を形成のため県内外からの機能誘致 カリートコンベンション産業 健康・生命科学産業 環境エネルギー産業 西海岸コンベンションリゾート開発との連携 西側斜面緑地の緩衝機能や段丘端部からのオーシャンビューを活用
コンペ結果	提案名称			
選外	普天間基地返還跡地「基地を平和の象徴へ」未来都市はごもも園 仮名称		・車椅子、障がい者の雇用の場づくり	・六次産業モデル
選外	沖縄国際先進環境都市構想 ~環境技術立派沖縄を目指して~	・自然利用型・環境配慮型都市		・総合自由商業(一般商業からコマケまで)
選外	緑を育て、エネルギー創出と二酸化炭素排出を抑制するコミュニティファーム	・自給自足が可能なコミュニティの構築		・沖縄型分譲農場(週末農場)
選外	映像・映画産業を基地返還跡地利用に誘致する提案	・コミュニティサイクルシステム		・産業テーマパーク(キャンプ場開発)
選外	跡地利用のパークゴルフ場の達成について	・官民一体の映画産業の基地づくり		・環境ツーリズム
選外	ネクスト オキナワ ~米軍のベースからなる更なる発展のベース~			・福祉クラスのカフェ
選外	個性の光る星を結び、輝く星座に。	非常時の拠点・防災公園	地域振興拠点	
選外	理想とする愛と夢のあるまちづくり	防災センター、防災公園、シェルターや予備電源等の防災設備	安全、安心して暮らせるまちづくり、リゾートアイランドを目指す	産業振興を促進、若者が活躍する環境の構築による雇用創出
選外	沖縄の魅力を世界へ！inOKINAWAサーキット			
選外	琉球回路/沖縄の自然と歴史から未来へつなぐ		緑豊かなまちづくり、海外移住者との掛け橋	サーキット世界大会
選外	沖縄で生き生き	防災の拠点	無料施設の設備	無料動物園併設
選外	ループシティで6つの「わ」~6つの跡地と周辺地域が6つの拠点でつながり、わしたウチナーぬ持統的発展を先導するために~	中南部都市圏の防災機能	文化都市として位置づけ、教育施設や学習施設、エンターテインメント施設の設置	大規模エンターテインメント施設
選外	歴史、文化の新しい始まりに向かって		・新しい魅力を創出する場としてほかの跡地と連携	
選外	世界をリードする高齢者福祉モデル都市へ		介護従事者の教育機関、看護学校、医学大学の設立	
選外	大規模跡地返還についての跡地利用		・インターナショナルスクールの設立	
選外	教育、医療、保養観光施設ハブ集積でアジア誘引		・人との触れ合いがある場所	・商業施設の設置
選外	世界の富裕層が長期滞在する沖縄			
選外	「琉球グリーンライフ創出プロジェクト」沖縄の誇り高い自立と自活を目指して		自然の保全・文化の継承、復元、発信	プロジェクトにおける民間企業の参加
選外	ふてんまランド		平和教育の場	多種多様な人材の雇用の創出
選外	愛・沖縄~そして世界へ~		電力の供給・利益の配当・国際エネルギー生産都市	
選外	ずーっと大好きおきなわ	緊急時避難場所	産業の底上げ・食料の備蓄、波及の仕組みづくり	障壁者の雇用受入れ・若年層の農業への就労
選外	琉球の自立		沖縄にないものを作る・土地柄、文化に似合った街づくり	農業体験の開催
選外	未来の県民・子供たちが誇りに思う跡地利用		大人、子供、外国人が楽しめる場所	
選外	「まちづくり信託公社」を中心とした跡地利用計画の提案	東アジア防災研究機関設置	既存の施設を再生させた研究中心のまち	
選外	大規模基地返還跡地利用計画における駐車場を中心とした都市計画		都心部への中継地点として利用	
選外	「普天間交通結節センター」の整備を基軸とする沖縄振興施策の集大成		パークアイランド施設の整備による洗滞緩和・新たな観光スポット	
選外	朝の産業化を中心とした観光、医療、マリンバイオ産業の複合産業の集積させた循環型地域「オーガニックシエラ沖縄」の提案			マリンバイオテクノロジー産業
選外	あるきたい まち、つながる みどり、はぐくむいのち		サードプレイス	
選外	アトチ ノチ ハレ ~本当に青い空、沖縄を目指して~	防災機能を完備	・広域化・複合化・ソフト化	
選外	細め細り 世界に羽ばたく琉球の星島			カジノ建設による雇用創出
選外	基地のあった"場所"			
選外	Laugh & Peace community(仮) 基本構想		「健康」「安心」「環境」を基盤とした街づくり	
選外	僕らが築く沖縄の未来			人材育成を目的とした専門学校の設立
選外	大型リゾートホテルを兼ね備えた人間ドックおよびダイエット専用医療施設と、県民による、商業施設としてのカジノ産業			
選外	Rebuilt Expanded Central and South Okinawa (沖縄中南部発展再生)			
選外	OKINAWA City in a Garden 構想		Eco-tubeを整備することにより各々の地域を連携し、Regional networkを骨格とする相互連関の動的であり環境バランスする街づくり	
選外	スージからのまちづくり		伝統的スージ(路地)を再考した、沖縄型街づくり	

表 3-8 コンペ 79 作品の提案内容 (8/12)

大分類	普天間公園	旧集落	並松街道
中分類			
全体計画の中間取りまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・振興拠点ゾーンの中心施設として沖縄振興の拠点やまちづくりの原動力として育てる ・災害時には広域防災拠点としての機能(災害時のライフラインの確保・救済活動拠点の整備等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧宜野湾・神山・新城集落の区域を主として、歴史的な風量や民族文化の再生に向けた住宅地開発 ・旧集落の地権者や新しい来住者を募り、今日の生活利便を確保しつつ、伝統的な集落空間の姿(区画割、屋敷林、街並み等)や民族文化(綱引き、闘牛、エイサー等)の再生のあり方を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・跡地⇒松並木道を往時の幅員・ルートで、緑道等として再生 ・周辺市街地⇒「並松街道」の全体像が見える空間づくりを推進 ・「普天満宮参詣道」としての史跡指定・管理を行うことを目標として整備手法や普天満宮と結ぶ区間等の再生を検討
コンペ結果	提案名称		
選外	普天間基地返還跡地「基地を平和の象徴へ」未来都市はごろも園 仮名称		
選外	沖縄国際先進環境都市構想 ～環境技術立県沖縄を目指して～		
選外	緑を育て、エネルギー創出と二酸化炭素排出を抑制するコミュニティファーム		
選外	映像・映画産業を基地返還跡地利用に誘致する提案		
選外	跡地利用のパークゴルフ場の造成について		
選外	ネクスト オキナワ ～米軍のベースからなる更なる発展のベース～		
選外	個性の光る星を結び、輝く星座に。		
選外	理想とする愛と夢のあるまちづくり		
選外	沖縄の魅力の世界へ！inOKINAWAサーキット		
選外	琉球回路/沖縄の自然と歴史から未来へつなぐ道		
選外	沖縄で生ききる		
選外	ループシティで6つの'わ' ～6つの跡地と周辺地域が6つの視点でつながり、わたしたちウチナーめ持続的発展を先導するために～		
選外	歴史、文化の新しい始まりに向かって		
選外	世界をリードする高齢者福祉モデル都市へ		
選外	大規模跡地返還についての跡地利用		
選外	教育、医療、保養観光施設ハブ集積でアジア誘引		
選外	世界の富裕層が長期滞在する沖縄		
選外	「琉球グリーンライフ創出プロジェクト」沖縄の誇り高い自立と自活を目指して		
選外	ふてんまランド		
選外	愛・沖縄～そして世界へ～		
選外	ずーっと大好きおきなわ		
選外	琉球の自立		
選外	未来の県民・子供たちが誇りに思う跡地利用		
選外	「まちづくり信託公社」を中心とした跡地利用計画の提案		
選外	大規模基地返還跡地利用計画における駐車場を中心とした都市計画		
選外	「普天間交通結節センター」の整備を基軸とする 沖縄振興施策の集大成		
選外	朝の産業化を中心とした観光、医療、マリンバイオ産業の複合産業の集積させた循環型地域「オーガニックシェルター沖縄」の提案		
選外	あるきたい まち、つながる みどり、はぐくむ いのち		
選外	アトチ ノチ ハレ ～本当に青い空、沖縄を目指して～		
選外	郷ぬ拂り 世界に羽ばたく琉球の星島		
選外	基地のあった"場所"		
選外	Laugh & Peace community (仮) 基本構想		
選外	僕らが築く沖縄の未来		
選外	大型リゾートホテルを兼ね備えた人間ドックおよびダイエット専用医療施設と、県民による、商業施設としてのカジノ産業		
選外	Rebuilt Expanded Central and South Okinawa (沖縄中南部発展再生)		
選外	OKINAWA City in a Garden 構想		
選外	スーヅからのまちづくり		

表 3-9 コンペ 79 作品の提案内容 (9/12)

大分類	普天間基地跡地の位置づけ	水環境	自然
中分類			緑
全体計画の中間取りまとめ		<ul style="list-style-type: none"> 湧水群、大山湿地、喜友名泉(チュンナガー)等が一体となった水循環の保全 湧水量の維持に向けて雨水地下浸透を促進 地下水涵養の仕組み解明とあわせて水収支シミュレーション等に基づく、雨水排水施設や土地利用誘導(敷地内浸透) 汚染水の地下浸透の防止 小河川や排水路の水質改善 地下水や雨水などの貯留水を循環利用 ⇒ 公園灌水/水面の創出/冷熱の供給 田芋畑における営農の継続や生物の生息・生育環境の保全に配慮した水路網の整備等 	<ul style="list-style-type: none"> 「施設緑地」(公園等)の適用 「地域性緑地」(風致地区や地区計画等による敷地内緑化等)の適用 幹線道路など沿道空間の緑化 土地の起伏を活かした、斜面等の緑化 西側斜面緑地、大山湿地、キャンプ瑞慶覧など跡地内外に跨る区域を一体に保全整備 来住者誘致へ向けた緑豊かな憩いの場となる公園の整備 御蔵林等の既存樹林の保全を中核とし生態系ネットワークの形成 現状保存の対象として選定された重要遺跡の内、公共施設としての維持・管理に期待され、優れた風景づくりにもつながるものについては、公園等として整備
コンペ結果	提案名称		
選外	Mother Coral Island 2045 ー共生・共育・共創の理念による国際人材育成プロジェクトー	自然に回帰し、癒しと意識の洗浄を行う環境保護区	
選外	オー ワンダフル!! 古都沖縄		
選外	全員集合	静かな、静かな、住宅地	
選外	21世紀万国津梁の実現		
選外	子や孫に夢広がる美ら島うなちー	・未来の沖縄の中心拠点ゾーン・世界平和研究ゾーン・最先端研究ゾーン・文化、エンターテインメントゾーン	
選外	新交通システムで人と人がつながるまちづくり	鉄道を敷設	
選外	OKINAWA EIGO ISLAND 滞在型英語学習施設(エリア)		
選外	アジアハブセンター IN OKINAWA		
選外	軍事施設から医療基地へ!	空港施設をそのまま利用し、民間空港へ	緑の公園を整備
選外	基地跡地を健康リゾート保養地にし元気が夢ある沖縄へ	・沖縄新時代の実現のための中核拠点形成 ・周辺地区との連携 ・沖縄県他地域との連携	
選外			
選外	「軍事力から平和力へ」返還される大規模基地をポードレスな「生命の楽園」への転換	アカデミックリハビティ 再生可能エネルギー研究所、大学、工場等	
選外	「おきなわふるさと再生機構」のしごと	湧き水	緑地再生事業 既存市街地にわずかに残された緑地を拡大
選外	From WAR to PEACE	「平和の研究都市」自然エネルギーと医療の研究開発を進める	公共施設の緑化、跡地に残る緑を残すこと、エコリズムの拠点を作る
選外	沖縄の自然と共に 人生の創造 生涯にわたるキャリアデザインができる街 後世に伝える沖縄の文化遺産	平和交流拠点 普天間公園 集合住宅	リュウキユウマツ並木の復元 地下水を利用した植物の栽培
選外	「持続的新都心軸創出のために」～21世紀のメッセージ駅・OKINAWAをめざして～	「食・住・研・自然がハーモニーする次世代へのメッセージ」各種機関のバックアップ拠点、静脈系産業、製造業などの施設設置	小型水流発電・ピトーブの創出・地底ジオパーク
選外	沖縄情熱多彩都市 ライフスタイルと都市の形	中軸・「国際交流・医療・先端ビジネス・学術施設そして周辺住民の居住区」	緑のストラクチャーの整備 各返還地周辺を緑地帯もしくは自然海岸で囲む 既存移住区域の農業利用または再緑化
選外	Promotion of the economy	広域構想の要、IT化や企業の誘致・育成および人材育成の中心 沖縄の経済発展の最先端 経済による都市の国際化	
選外	美しい海と空のために	「いのちの森」の浄水層 生態系に潜在自然植生の還元を行わせる場所	本来のアブや集水システムを大切に。 水系として陸と海を繋ぐ基地防護林の設置
選外	教育・スポーツ・アートの街		
選外	真スタイルの英語教育を沖縄で	英語教育の新しい提案をしていく土地	
選外	アジアのリゾート型テストサーキット場をつくる		
選外	帰って来るジマの宝は生き抜くヒント		ため池の造成 水路をもうける 水車による電力の生産 公園緑化 農地の展開
選外	広域地域を特別区域として行く路区制とする		クルーズ船が入港できるように整備
選外	世界へ～未来への可能性に向けて～	経済的發展、交通ネットワーク形成の中心、亜熱帯型アグリ・スマートシティ	農地の形成 既存緑地の保全や緑化の推進
選外	中南部都市圏駐留軍用地跡利用計画	森林面積の拡充・保養・休暇等のための地区 観光業	ターミナルとしての施設設備 既存林の保存
選外	宇宙立国琉球	宇宙基地 宇宙関連研究開発、観光業の開拓 アジアなど世界の先進機関との技術開発交流を促進する中心	グリーンコリドー 既存市街地に緑の糸を張り巡らせる
選外	柔らかな速度		

表 3-10 コンペ 79 作品の提案内容 (10/12)

大分類	都市		
中分類	基幹交通	都市構造	エネルギー
全体計画の中間取りまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 主要幹線道路としての交通機能の強化 ⇒「中部縦貫道路」「宜野湾横断道路」 周辺市街地等の沿道まちづくりとの共生 宜野湾市の幹線道路網や沖縄自動車道との結節点の整備 市街地環境に及ぼす影響の緩和、景観等へ配慮 跡地と周辺市街地の連携に向けたシンボル道路(地区幹線道路)を配置 ⇒国道330号と(仮称)普天間公園 鉄軌道を含む新たな公共交通軸の計画づくり(広域集客拠点や居住ゾーンと近接) 	<ul style="list-style-type: none"> 都市幹線道路の整備(主要幹線道路との連携を強化) 地区幹線道路の整備(都市幹線道路を補完し、土地利用の誘導や周辺市街地との一体化に向けたシンボリックな空間の創出を目標) 再開発等の事業化に必要な用地を計画的に供給、移転元の市街地の再編等を促進 周辺市街地からの利用に配慮した公園の整備 小・中学校やコミュニティ施設、共同基地整備を含めた基地の再配置 市民の新しい生活拠点となる市民センター整備を推進(市庁舎を含む市民利用施設の移設・新設や交流の場となる市民広場の整備) 	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電 省エネ住宅の導入 電力会社との共同によるスマートシティ・スマートグリッド・マイクログリッド等の整備 低炭素や資源循環をテーマとした先進的モデル地域とした総合的な研究を推進
コンペ結果	提案名称		
選外	Mother Coral Island 2045 ー共生・共育・共創の理念による国際人材育成プロジェクトー	次世代高速鉄道	3つのエリア
選外	オー ワンダフル!! 古都沖縄	公共交通機関を絶対軸とする	
選外	全員集合		
選外	21世紀万国津梁の実現		
選外	子や孫に夢広がる美ら島うちなー	交通インフラは、現状に県の構想を踏まえ予算を抑える。	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者社会に対応したまちづくり(コンパクトシティ・スマートシティ) 景観改善のため電線、給排水館の地中化
選外	新交通システムで人と人がつながるまちづくり	普天間飛行場を中心とし、その周辺地区には鉄道の駅とのアクセスを容易にできる路面電車の整備	渋滞や環境破壊の少ないエコタウン
選外	OKINAWA EIGO ISLAND 滞在型英語学習施設(エリア)		6つの施設はそれぞれが1つの街として機能する
選外	アジアハブセンター IN OKINAWA		
選外	軍事施設から医療基地へ!		居住区と医療基地の設置
選外	基地跡地を健康リゾート保養地にし元気で夢ある沖縄へ		<ul style="list-style-type: none"> 沖縄県「都道府県町」構想 46都道府県飛び地行政区の導入 ユニバーサルデザイン、環境共生等を基本とした都市づくり・環境負荷の少ない循環型社会システムの構築
選外			持続可能な資源の選択
選外	“軍事力から平和力へ”返還される大規模基地をボーダーレスな「生命の楽園」への転換	クリーンエネルギー(電気・水素)を用いた陸上交通	ジョイフル・リゾート・アカデミック・メディカル・環球ビレッジの一貫性を持たせた5つのエリア
選外	「おきなわふるさと再生機構」のしごと	LRTによる復元事業 沖縄にあった唯一の鉄道を観光名所に	バイオマス発電
選外	From WAR to PEACE	モノレール駅の設置	それぞれのテーマに沿った6つのエリアが存在
選外	沖縄の自然と共に 人生の創造 生涯にわたるキャリアデザインができる街 後世に伝える 沖縄の文化遺産		再生可能エネルギーの促進、大規模太陽光発電、風力発電の整備、ソーラーパネル工場の設置
選外	「持続的新都市軸創出のために」～21世紀のメッセージ駅・OKINAWAをめざして～	自然系インフラの創出・再生	バイオマスエネルギー、クリーンエネルギーの利用
選外	沖縄情熱多彩都市 ライフスタイルと都市の形	複数の返還地と既存の地域を包含した交通網の計画	田園居住都市・交通複合拠点都市・緑の中の研究創造都市・港の国際エンターテインメント都市・港のゲートシティの6つのライフスタイルがある都市構造
選外	Promotion of the economy	歩行空間ネットワークの形成 それぞれの地区を移動できる公共交通システムの整備	
選外	美しい海と空のために	高架高速レール、LRT網の設置 路線は基地内外の既存道路線上	
選外	教育・スポーツ・アートの街		語学学校エリアの創出
選外	真スタイルの英語教育を沖縄で		
選外	アジアのリゾート型テストサーキット場をつくる		サーキットを中心とした各種施設による構成
選外	帰って来るシマの宝は生き抜くヒント		
選外	広域地域を特別区域として行く路区制とする	6施設跡を有機的に連携させる特別な交通ツールの設置	用地跡地を各市町村から分離させ沖縄県の新たな行政区として新設する グローバルに活動できる特別地域とする
選外	世界へ～未来への可能性に向けて～	軌道系公共交通システムの構築 鉄道 BRT LRT モノレール	鉄道駅を中心とした市街地形成
選外	中南部都市圏駐留軍用地跡利用計画	普天間飛行場跡地に道路の新設 58号と330号線を繋ぐ	低炭素型社会の実現
選外	宇宙立国琉球	LRT ゆいレール 高速道路 の設置	TOD 公共交通の駅周辺800m圏域に住居や商業施設を集積させる
選外	柔らかな速度	ゴンドラの設備	海洋発電 風力発電など
選外			新しいインフラを整備することで周囲と有機的に呼応する

表 3-11 コンペ 79 作品の提案内容(11/12)

大分類 中分類	都市		産業	
	防災	まちづくり	雇用創出・失業対策	付加価値産業
全体計画の中間取りまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 地下空洞上部における建築物敷地等としての安全確保(地下空洞誘導・土地利用誘導など) 地域資源として地下空洞の保全・活用 	<ul style="list-style-type: none"> 「(仮)歴史まちづくりゾーン」並松街道や旧集落等を中心とし、隣接する既存樹林地や遺跡を含む一帯について、「宜野湾」のまじり立ちが見えるまちづくりを目標 ユニバーサルデザインと都心共同住宅の導入による「定元人口」の確保 来訪者の誘致を目標としたゆとりある敷地の供給、コミュニティづくり、緑豊かな環境づくり等を重視した住宅地開発 「戦略的通信コスト低減化支援事業」や「沖縄GX利活用促進事業」の活用 		<ul style="list-style-type: none"> 基幹産業等の集積地(リサーチパーク等)を形成のため県内外からの機能誘致 ⇒リゾートコンベンション産業 医療・生命科学産業 環境エネルギー産業 西海岸コンベンションリゾート開発との連携 西側斜面緑地の緩衝機能や段丘端部からのオーシャンビューを活用
コンペ結果	提案名称			
選外	Mother Coral Island 2045 ー共生・共育・共創の理念による国際人材育成プロジェクトー			富裕層向けリゾート分譲地、大型テーマパーク、香天山ワールドキャザリング、美浜ワールドエンターテインメントシティ
選外	オー ワンダフル!! 吉都沖縄	多くの人々を魅了し、元氣あるまちづくり		
選外	全員集合	宜野湾市民に帰郷を促し、新住民との融合により活氣あふれる町へ		各種スポーツのキャンプ地として、各企業の研修地として滞在型の総合的な施設群を整備する
選外	21世紀万国津梁の実現			海浜リゾート型の新しい遊覧船の設置・沖縄自由港の設置
選外	子や孫に夢広がる美ら島うなー	大規模国立公園の地下が空洞であることを利用しての防災備蓄庫	周辺市街地の持続的な活性化対応	「まごの店」のような高校生レストランをタンクファームに設置
選外	新交通システムで人と人がつながるまちづくり			ビーチやホテルなどの宿泊施設、テーマパークやレジャーランドの設置
選外	OKINAWA EIGO ISLAND 滞在型英語学習施設(エリア)		雇用員として雇用されていた人達を施設内のスタッフとして再雇用	滞在型英語学習施設、プライベートジェット機専用飛行場、高級ホテル
選外	アジアハブセンター IN OKINAWA			日帰り宿泊施設、陸上クルーズ保養船、海底ガラスポート
選外	軍事施設から医療基地へ!	那覇港湾施設に物資備蓄倉庫や病院船、補給船の整備		高度難病医療、リハビリテーション施設の整備
選外	基地跡地を健康リゾート保養地にし元氣で夢ある沖縄へ	都道府県単位としたまちづくり	・大幅な県民雇用の創出(約20万人) ・高齢者に2時間の雇用の場を創設	高齢者、医療健康関連の滞在型観光施設の設置
選外				
選外	“軍事力から平和力へ”返還される大規模基地をポーターレスな「生命の楽園」への転換	観光都市から環境都市へのシフト		最先端医療施設、リハビリテーション施設、リゾート、全天候型複合集客施設としてのポートタウン、テーマパークの設置
選外	「おきなわふるさと再生機構」のしごと	変動換地率制によるハイパー・区間整理と株式地券による不公平感のないまちづくり		
選外	From WAR to PEACE	「スポーツ」「自然」「人とのふれあい」を基盤とした地域復興・まちづくり		体験型リゾート地の開発、国際スポーツセンター、健康に関する研究施設、国際展示場の設置
選外	沖縄の自然と共に 人生の創造 生涯にわたるキャリアデザインができる街 後世に伝える沖縄の文化遺産			亜熱帯・サング種の島々ならではの自然豊かなテーマパーク、農業体験施設、キャリア教育ができる開放型施設の設置
選外	「持続的新都心軸創出のために」～21世紀のメッセージ駅・OKINAWAをめざして～	暫定的国民共用港湾の隣接傾斜地を開発し、防災避難地の整備	自然と暮らしが共生し、様々な人々が寄り添う「あたたかい持続的な街」	社会的弱者自立支援事業 不就労若者プログラム
選外	沖縄情熱多彩都市 ライフスタイルと都市の形	世界のモデルとなる生活、観光、ビジネスの複合した環境歴史都市を目指す		市民も集えるゾート施設の設置
選外	Promotion of the economy			先端医療施設 ・ショッピングの楽しめる商業空間
選外	美しい海と空のために	公園型防災施設再配置		未来創造型シンクタンク・未来大学の創設
選外	教育・スポーツ・アートの街	30年後も成熟し発展し続ける県・街を目指す		語学学校、アートエリア、教育の場の積極的な設置
選外	真スタイルの英語教育を沖縄で	英語テーマパーク施設などを通して英語教育のある街へ		英語テーマパーク、学習施設
選外	アジアのリゾート型テストサーキット場をつくる	サーキットを中心としたまちづくり		自動車メーカーの研究所、モータースポーツ博物館、国際サーキットの建設
選外	帰って来るシマの宝は生き抜くヒント	自律した生活づくり		F1レースのコース
選外	広域地域を特別区域として行く路区制とする	グローバルを基盤にしたまちづくり		平和センター、ホテル、ミュージアムセンター、海洋リゾートセンター、スポーツセンター
選外	世界へ～未来への可能性に向けて～			
選外	中南部都市圏駐留軍用地跡利用計画	緊急連絡態勢の充実に促進		森林整備を行うことによる雇用 商業施設における雇用機会の創出
選外	宇宙立国琉球	沖縄でのみ実現可能なアジアに開かれた世界初初の宇宙産業を基盤とした自給型諸島へ		キャンプ、トレッキング、森林体験ツアー、バンガローコテージ、別荘の設置
選外	柔らかな速度	街区を越えた広がりを持つまちづくり		宇宙ステーション、テーマパーク型農林水産施設、ツアリズム滞在施設
選外				コミュニティ施設、公共施設、

表 3-12 コンペ 79 作品の提案内容 (12/12)

大分類	普天間公園	旧集落	並松街道
中分類			
全体計画の中間取りまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 振興拠点ゾーンの中心施設として沖縄振興の拠点やまちづくりの原動力として育てる 災害時には広域防災拠点としての機能(災害時のライフラインの確保・救援活動拠点の整備等) 	<ul style="list-style-type: none"> 旧宜野湾・神山・新城集落の区域を主として、歴史的な風景や民族文化の再生に向けた住宅地開発 旧集落の地権者や新しい来住者を募り、今日の生活利便を確保しつつ、伝統的な集落空間の姿(区画割、屋敷林、街並み等)や民族文化(編引き、闘牛、エイサー等)の再生のあり方を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 跡地⇒松並木道を往時の幅員・ルートで、緑道等として再生 周辺市街地⇒「並松街道」の全体像が見える空間づくりを推進 「普天満宮参詣道」としての史跡指定・管理を行うことを目標として整備手法や普天満宮と結ぶ区間等の再生を検討
コンペ結果	提案名称		
選外	Mother Coral Island 2045 ー共生・共育・共創の理念による国際人材育成プロジェクトー		
選外	オー ワンダフル!! 古都沖縄		
選外	全員集合		
選外	21世紀万国津梁の実現		
選外	子や孫に夢広がる美ら島うちなー		
選外	新交通システムで人と人がつながるまちづくり		
選外	OKINAWA EIGO ISLAND 滞在型英語学習施設(エリア)		
選外	アジアハブセンター IN OKINAWA		
選外	軍事施設から医療基地へ!		
選外	基地跡地を健康リゾート保養地にし元気で夢ある沖縄へ		
選外			
選外	"軍事力から平和力へ"返還される大規模基地をボーダーレスな「生命の楽園」への転換		
選外	「おきなわふるさと再生機構」のしごと		
選外	From WAR to PEACE		
選外	沖縄の自然と共に 人生の創造 生涯にわたるキャリアデザインができる街 後世に伝える沖縄の文化遺産	○平和交流拠点として県民の「あしびなー」となる普天間公園の設置	
選外	「持続的新都市軸創出のために」～21世紀のメッセージ駅・OKINAWAをめざして～		
選外	沖縄情熱多彩都市 ライフスタイルと都市の形		
選外	Promotion of the economy		
選外	美しい海と空のために		
選外	教育・スポーツ・アートの街		
選外	真スタイルの英語教育を沖縄で		
選外	アジアのリゾート型テストサーキット場をつくる		
選外	帰って来るシマの宝は生き抜くヒント		
選外	広域地域を特別区域として行く路区制とする		
選外	世界へ～未来への可能性に向けて～		
選外	中南部都市圏駐留軍用地跡利用計画		
選外	宇宙立国琉球		
選外	柔らかな速度		

4. 跡地利用に関する気運の醸成を図る催しの提案及び開催運営

(1) 実施概要

- タイトル / 沖縄県 21世紀未来ビジョン グループインタビュー（意見交換会）
 20XX 普天間未来予想 ～沖縄中南部ビックプロジェクト構想～
- 実施日 / 2014年3月19日（水）
- 主催 / 普天間飛行場跡地利用計画策定業務 受注JV3社
 （URリンケージ・オリエンタルコンサルタンツ・国建）
- 受付・開場 / 14:30
- 開催時間 / 15:00～17:00
- 開催場所 / 株式会社 URリンケージ 5F 501・502会議室
 東京都中央区日本橋1-5-3 日本橋西川ビル5F
- 参加企業 / 参加10社（18名）
 総合デベロッパー：3社（6名）、総合商社：1社（2名）、
 メガバンク：2社（3名）メーカー：3社（5名）、リゾート：1社（2名）
- プログラム / ■開会挨拶（URリンケージ 販売計画部長 森下）
 ■プロモーションビデオ上映 ～普天間未来予想図～
 ■中間取りまとめ 概要説明
- 沖縄県 企画部企画調整課 内間主事
 ～普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた全体計画の中間取りまとめ～
 - 宜野湾市 基地政策部 基地跡地対策課 仲村 係長
 - ・ 中間取りまとめの補足説明
 - ・ 飛行場跡地の地権者・民有地率 等地元情報
 - ・ 合意形成に向けた取り組み（時間により自然環境等）
 - 意見交換
 沖縄県・宜野湾市の考える跡地利用について、各社の立場・観点から
 自由な意見を述べていただく。
- 司会 / URリンケージ 販売計画部 小玉
- コーディネータ / URリンケージ 都市整備部 課長 遠竹

<p>会場アクセス</p>		<p>□最寄駅 アクセス</p> <p>東京メトロ 東西線・銀座線 都営地下鉄 浅草線 「日本橋駅」下車 B10 出口 徒歩2分</p> <p>東京メトロ 半蔵門線 「三越前駅」下車 B6 出口 徒歩3分</p>
---------------	---	---

(2) 発言録

発言者	発言内容
中間取りまとめを映像にまとめたものの上映	
沖縄県より「中間取りまとめ」についての概要説明	
宜野湾市より飛行場跡地利用計画における宜野湾市の取組みの説明	
それを受けて出席の企業の方との意見交換へと入り主催者側の進行役により進めた	

意見交換

進行役

本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

弊社を含め皆様方に普天間飛行場につきましてはご意見を頂きたいと思って本日お集まり頂きました。普天間飛行場については、先程沖縄県や宜野湾市の方からお話がありましたが、今、中間取りまとめという段階で、このあと跡地利用計画というのを策定していく段階です。今まではどちらかと言うと行政の都市計画、産業振興、あるいは地権者のご意向というものを中心として計画を策定して来たわけですが、これから事業に向けて動く中で、最終的に事業のプレイヤーとして関わられる企業の皆様のご意見を聞かないで計画を立てるのはいかなものかということがありまして、今回こういう機会を設けさせて頂き、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

意見交換会という簡単な資料がありますので、簡単な説明をさせて頂きませんが、表紙をめくって頂きまして航空写真があります。普天間飛行場を中心としまして、その北側にキャンプ瑞慶覧があります。キャンプ瑞慶覧は先程説明にありましたように、西普天間住宅地区という 50 ヘクタールくらいのエリアについては来年度早速返って来るということで、最初のこれまでに返って来た土地もありますが、これからまとめて返って来る中では第一号になります。宜野湾市、沖縄県はもちろん国も含めて検討して行くということで、返還拠点地区という位置づけがされております。皆さんの中でお耳に挟んだ方がいらっしゃる方もいるかも知れませんが、ここにつきましては沖縄県の医師会の方で重粒子線の治療施設の有力な候補地として掲げられており、医療というのも1つのテーマになります。それから右側のエリアは海際のコンベンション、西海岸地域などがあるところで、こちらにつきましても現在世界水準のオーシャン・フロント・リゾートということで開発が検討されております。この資料の中の5ページ目を見て頂きますと、その辺の位置関係とそれぞれのコンセプトについて書いてございます。普天間飛行場跡地は多機能合流拠点都市、キャンプ瑞慶覧については新生活環境、西海岸地域については先程言いました世界水準のオーシャン・フロント・リゾートということで、今回の主眼は普天間基地の中間取りまとめに関するご意見を頂くこととなりますが、それよりも早く動き出すキャンプ瑞慶覧あるいは西海岸地域についても合わせて、ご意見等ありましたら伺えればと考えております。

それから2ページ目の普天間飛行場の位置関係ですが、こちらにつきましては真ん中辺の一番肝になる場所で、交通軸の要所になるところでございまして、周りにこれだけの返還予定地が抱えられているということです。今那覇空港が途中まで西海岸道路という高規格道路が作られていますが、これがこちらの方に伸びてくるという計画になっており、これが伸びると那覇空港からだいたい30分位のエリアになります。それから那覇空港に関しては第2滑走路の整備が予定されており、平成32年に発着枠も増加が見込めることとなります。

それから3ページ目には、先程からの計画の経緯、流れ、それから今の到達点がありますが、現在は基本計画の中間取りまとめという段階で、2016年度末を目途に跡地利用計画の素案というものを策定して行くということ

発言者	発言内容
総合デベ②	<p>で、そのあとで跡地利用計画になりますが、その過程の中にあるということで、今まさに具体化するに当たって民間企業の皆様のご意見をお聞かせ願いたいということです。</p> <p>この後進んで行きまして返還の期日が決まるということになりますと、返還されて2～3年位は不発弾だとか土壌汚染だとか、そういった支障除去期間があり、それが2年位国の負担でやり、その後に土地の引き渡し、それから事業ということで、現在のところは土地区画整理事業を前提として考えています。ただ基地でございますので、あくまでも更地になって返って来るということです。</p> <p>それから4ページ目は普天間飛行場を輪切りにした開発イメージで、真ん中の中部縦貫道路というのが幹線道路として真ん中にあり、その幹線道路の沿道に都市拠点ゾーンということで、商業施設、オフィス、ホテルなどの都市的なゾーン、それから振興拠点ゾーンということでこちらにつきましては100haの普天間公園を中心として、研究所やリサーチパークみたいなものを展開して行きたいという計画があります。それから住居ゾーンにつきましては、低層の自然豊かな住宅地区を作っていくという計画になっています。</p> <p>これらがざっくりとした計画です。こういった今までの説明を踏まえまして、ご質問でもよろしいですし、計画に対するご意見を伺えればと思います。順番とかも特にありませんのでよろしくお願い致します。</p> <p>追加でご説明を頂ければと思います。先程お話にもありましたように、地元でかなり可能性を期待されているということなので、ちょっとその中身をもう少し教えて欲しいのと、地権者さんが3,000名いらっしゃってなかなか大変ということがあるとのことですが、地権者さんの思いやお考えがどういう感じか、その2点をお聞かせ頂ければと思います。</p>
宜野湾市	<p>普天間飛行場は歴代の首相も重要課題という形で認識されています。これ位の規模の場所が真ん中にあるということです。今までまとまった産業がないということが一番のネックとなっており、そこに何か持って来られないか。普天間飛行場の職員はこれだけで200名しかいない。全て宜野湾市の市民ではなく全県からで200名しか雇用が生まれていないということは、新たな雇用というのはここで住んで暮らしてというのが宜野湾市の考えで、これは新たな都市計画のスタートになる。それから普天間の飛行場の跡地の計画、中間取りまとめが具体化するともう少しまだできるのではないかと期待を宜野湾市としては持っている。地権者には様々な意見があります。少し返還がじっくりだったというのは、様々な意見を聞いていたのかなと思っています。1つはコミュニケーションの時間がなかったということ、緑が豊かであるということなど、少しずつ、認識の高い方に講演をしてもらったり、様々な方に講演や勉強会や懇談会をしてもらって、少しずつですけど緑や環境に対する考え方が浸透して来ているのかな、と。ただ利活用ということになると様々な意見があって、それをいかに集約するかが今後の課題だと思っています。</p>
進行役	<p>他にご意見はございますでしょうか。なかなか先程のビデオをみただけではなかなかちょっとわからないと思いますが、今は中間とりまとめということで、今までに決まったのは、大体大きなゾーニングと、大きな公共施設の配置というところなので、例えばその土地の可能性とか、民間事業としては、500haの真っ白な土地ということなので、各社さんで今までのノウハウ等からこんなことが考えられるのではないかとご指摘を頂ければと思います。</p>
メーカー③	<p>沖縄県の方にお聞きしたいのですが、沖縄県の立場から、沖縄本土の中で宜野湾市の普天間基地と、それと空港というのはもう出ているのですが、その他の隣接する地域する都市との関わりを多少考えて行かないと、ここで求められる要求というのは変わってくると考えておまして、現在隣接する都市あるいは空港等の連携も考えたこの地域での開発目標というのはございますでしょうか。</p>

発言者	発言内容
沖縄県	<p>まず沖縄県が策定している 21 世紀ビジョンにおいて、基地返還跡地は沖縄の新たな発展のために貴重な空間ということで位置づけて、中南部は基地の関係上都市構造がちょっと歪んでいますので、それを是正する。あと県土構造の再編につながる基地跡地開発というのは大きなインパクトになるということで位置づけております。</p> <p>平成 25 年 1 月におきまして、中南部都市圏駐留軍用地跡地広域構想を沖縄県の方で策定しまして、この中におきまして、今、中南部都市圏の普天間飛行場、キャンプファーム、キャンプ桑江、キャンプ瑞慶覧、牧港補給地、那覇軍港といった地区が今返還予定地区とされていますけれども、何故これを策定したかと言うと、この中南部都市圏というのは他の全国的な政令指定都市と比べると神戸市と同等の人口密度で、広的にも広島と同じ位の規模を持っている地域でして、沖縄全体の発展につながる 100 万都市の形成を目指しております、あと各跡地が各々に開発してしまうとパイの奪い合いというのを起こしかねないということで、各跡地において機能分担をして、普天間飛行場におきましては整備コンセプトとしましては、平和シンボルの国際的高次元機能を備えた多機能交流拠点ということで位置づけておまして、産業としてはリゾートコンベンション、医療生命科学産業、環境エネルギー産業、文化産業、スポーツ・ツーリズムなどといった産業を設定しております、他の返還跡地と機能を分担するように沖縄県としては設定しております。</p>
メーカー③	<p>あともう 1 点、計画はございますが、沖縄県にはついこの間モノレールが走ったということからまだ時間が経っていないこともあって、この計画で鉄軌道とあるが、こちらで言う在来線に相当するもので 100km 前後のものを想定しているという認識でよろしいでしょうか。</p>
沖縄県	<p>まだ細かいことは部局が違うので申し上げられないのですが、想定としましてはこちらの 140km(時速) 想定鉄軌道で、那覇から中部か、名護まで、北部まで結ぶかはまだ策定はしていないが、今の現状の跡地利用では普天間にも駅を置いて、中部の拠点にするような話は出ております。</p>
進行役	<p>鉄軌道については空いている時間帯であれば那覇から 30 分か 40 分だが、それよりも遅い鉄軌道だと需要が。渋滞がひどいのでモノレールだけが唯一まともな時間で走っているのだが、モノレールというよりは更に言う都都市鉄道みたいなものが考えられるのではないかというようなことですね。ただ何ひとつ決まっているわけではありません。</p> <p>先ほどの機能分担につきましては、先程の資料の 5 ページ目で、その中で実はこの 3 つ、普天間飛行場、キャンプ瑞慶覧、西海岸、全てについて有識者委員会というのが行われております。その中でお互いがあまりに近接しているものですから、お互いにプラスになるような開発の考え方をしていかなければならないというのがございまして、例えば先程ご説明があったように、バラバラ返って来たりするので、需要の先みたいなもので言っていますと、今までの基地の返還地につきましては住宅地や大型商業施設、この中に泡瀬ゴルフ場跡地というのがございます。これはイオンモールさんがすごく大きなショッピングセンターをやっていますが、そういったもので先食いできるものも限界があるでしょうということがあって、先食いにならないように役割分担をするということと、それぞれある機能を連携することによって、地域として底上げを図るという考え方が良いのではないかとということで、先程話が出ました西普天間住宅地区の重粒子線施設というのは、本当にできるかどうかわかりませんが、仮にそれができるとした場合に、西海岸地域につきましてはリゾートでございまして、医療ツーリズムみたいなものがあるのではないかなど。それから普天間飛行場についてはサイエンスパークということも考えておまして、実は先程これも新聞報道等はされていると思いますが、製薬会社さんが作られている創薬関係の研究施設だとか、これも何も決まっているわけではないのですが、そういった普天間飛行場の中でサイエンスパークというものも考えております。そういった研究所だとかいうことで、それぞれが病院等と連携することで、医療という機能でも</p>

発言者	発言内容
	<p>底上げが図れるのではないかというような展開ができれば良いなど検討はしております。</p> <p>他に専門の分野の話で結構なので、気になるところがあれば質問、ご意見をいただけますでしょうか。</p>
総合商社	<p>まさにこれからのので明確ではないのですが、これだけの規模を段階的に開発するとすると、基地が返還されてからちょっと都市計画の決定が3年後なのかどうか見えないのですが、仮に事業着手が3年後で、いわゆる段階的に、最終的に何年間で開発するスケジュールなのか、少なくともファーストステージはどれくらいなのか、この計画書のスケジュールでは、ちょっとどこにあったか忘れてましたが、あとどれ位なのかイメージなのか、おそらく地権者さんは一番興味がある範囲ではないのかなと思います。</p>
進行役	<p>もちろんこれだけの規模がありますので、一気に作って一気に事業収益を回収して捌けるかという問題はございます。それは資金回収しながらということになるので、そういった意味で時間が掛かる可能性はあるんですけども、地権者の方のいろいろな意見があると先程あったが、総じて借地料を頂いているわけです。そういった意味ではお金を生み出さないことには、お金をもらっているのです、すぐに何かの事業を起こしてすぐに土地活用に掛からないと焦げ付いてしまうわけです。あと今住んでいるわけではないので、普通の区画整理事業よりはやろうと思えば早い可能性があるということだと思います。都市計画についてはできるだけ短縮して行かないと、返還が決まって、それもすぐにできるわけではないんですけど、いわゆるアセスやいろんな手続き関係があったり、埋蔵文化財があったり、意外と足を引っ張るものがたくさんあると思います。事前立ち入りというのが基地なのでなかなかできないが、それは今沖縄県や宜野湾市の方でも働きかけて、できるだけ事前に入って、調べられるものは調べられるようにしていきたいという働き掛けをしています。そのように事前に準備できて、先程言いました支障除去期間が2、3年ありますので、その間に都市計画、あるいは事業認可の手続きを進めて行けると思っています。その前でどれだけ準備をしておけるかということになるのかなと思います。今のスケジュールではそんなに事業期間としてはそんなに長くは想定していません、10年位だと思います。</p>
総合商社	<p>その間は当然地代を生まないということですか。</p>
宜野湾市	<p>地代は生みます。跡地利用推進法という法律が去年できまして、この法律によると、返還をされたあとに跡地を引き渡す前に実際に土壤汚染の調査をして支障を除去するに3年あって、その期間は地代は満額出るようになっていきます。その後引き渡しをされてから3年間、今度は給付金という形で年間1,000万までは給付金がいただける。更にその後についてはこの3年間のうちに、土地区画整理事業都市計画に基づき区画の認可を頂いた場合は、今度は政令に応じて何年というのは、あとで決まった形で地代を、1,000万までですが、収入というのがあります。実際にこの地権者の方は使用収益とするまでは、年間の上限は決まっているが、ある程度地代というものは付いて来るということがあります。</p>
総合商社	<p>段階的な開発をしても、ある程度は地権者を納得させるツールだということですか。</p>
宜野湾市	<p>ただ先程言ったように、返還されると相当分もらえますから、支障除去期間というのは国が責任を持って、普天間飛行場は5年なので、どのくらい掛かるか分かりませんが、その期間は今も言った地代がもらえるということですね。支障除去が終わると引き渡しをしますが、引き渡し後に売買すると、もう主要収益が掛かったという形になりますのでここで止まります。支障除去ができなかった形、自分が使えないという形だとまた給付金が伸びるのですが、引き渡し後に売買、相続は違いますが、売買があるとここで一旦止まってしまいます。</p>
進行役	<p>区画整理事業につきましても、例えばこういう区分けをすとか、そういった検討を別に今のところしているわけではないので、本当に500haの区画整理事業を一発でやるかという話もあると思います。その辺は今後の課題です。今回は普天間飛行場ということですが、ご意見を頂くということもあるのですが、まずは最初に話がありました</p>

発言者	発言内容
	ように情報発信の一環ということもあるので、ご理解を頂ければということもあります。
リゾート	サイエンスパークの話題がありましたし、新聞報道でもよく出ていたが、そういった具体的な方針については、先程の取りまとめよりもより具体的な内容かと思うが、そこまで有識者会議のようなところで議論されて、ある程度一定の情報というのは出ているということなのでしょうか。
宜野湾市	可能性があるということで、先程地権者が 3,000 人いるということではなかなか緑地、環境のこととか理解が得られないということで、緑地も環境が良くなることで企業さんにも来てもらったり、ここ数年貸す場合も様々な可能性があるということも同時にやりながら、有識者もサイエンスパークみたいなものについてもっと議論すべきじゃないかという意見もあったということです。
進行役	隣接する西普天間住宅は来年返って来る予定なのですが、そこにつきましては、元々の計画が住宅主体の計画だったのだが、やはりもっと都市機能を入れていくべきではないかということで、今宜野湾市が地元に入ってアンケート等取らせて頂いています。その中では住宅一辺倒ではなく都市機能も入れた計画もありなんじゃないかという意見も出てきていますので、必ずしも住宅でなきゃダメとか商業施設でなきゃダメということではないと思います。今のサイエンスパークという振興拠点ゾーンにつきましては、どちらかと言うと行政側の思惑として、緑の中のまちづくりということで、緑となじむような施設という風に考えますと研究所とか、簡単に研究所なんかできないよと言われるかもしれませんが、そういったものが緑の中で守秘性が高いような施設は緑を持ちながら立地できるということもあるので、有識者委員の先生方はそういったことを望まれていると。何故緑の中かという、基地だったことが幸いか災いかわかりませんが、自然度が高い緑が一部残っています。他のところはどんどんスプロールしてどんどんなくなっていますから、そういった歴史環境とか自然環境は結構素晴らしいものが残っているので、そういうものを最大限生かすのがこの魅力になるのではないかとされています。西海岸のリゾートと合わせてそういったグリーンツーリズムのような環境的なアプローチもあるのではないかと。緑を残すだけではお金を生み出せないの、緑を残す方向で皆様方のお知恵でお金を生み出すように考えていけばということです。
ゼネコン	今緑の話も出ましたけれども、今回普天間 470ha の緑の公園を作るという認識でしたが、緑も区画整理の中で生み出して行くということなのか、それとも買収するなり区画整理と切り離れた形で緑を残して行くのか、あと結構斜面緑地みたいなものもあるが、お考えはあるのでしょうか。
宜野湾市	<p>この中では普天間公園と位置づけしているのだが、沖縄県には海洋博公園と首里城公園というのがあり、普天間公園も含めて1つの沖縄の公園という形で今イメージしています。首里城はもともと首里城文化というものがある、元々自然分化したという形と、元々住民が暮らしてきたという形で、それを合わせて沖縄の国営公園というイメージを目指しています。様々な手法、考え方はこれから議論して行かないといけないのかなというのはあります。</p> <p>あとは 13 年度から宜野湾市に先行取得制度というのがありました。ただ宜野湾市だけでやっていたのでなかなか財源が難しくできなかったのですが、昨年からは沖縄県と一緒に、沖縄県は先程からありますように真ん中に道路をつくり、宜野湾市としても公共施設の再編が是非必要ということで一括交付金を使い、25 年度からやって、今回約 4.5ha。90%以上が民有地ですので、少しでも今から公共地を確保しないといけない。あとは湧水が盛んというのと下に洞穴とか様々なものがある、本当に立ち入りしないとわからないんですけど、そこも含めて緑の考え方を入れたつもりです。広範囲にそんな可能性があるのではないかとということで少しでもカバーする意味で、その手法はこれから色々検討して行かないといけないのかなと思います。</p>

発言者	発言内容
進行役	<p>広域構想の中で、基地返還跡地については、地区面積の 20%以上を目安して公園緑地を確保するという方針があり、これが必ずしも公共ということではないと思いますが、当然、区画整理事業で公共減歩で満たされる緑の量というのは当然限界があつて、実は沖縄の区画整理事業というのは、そんなに伸び率は高くありません。なので、そこは先ほど言ったような先買いなり何なりということで、地区面積の 20%以上というのも実は地区の事情によって、ほとんど緑しかない地区も実はかなりあります。特にキャンプ瑞慶覧については戻ってくるのは部分的なので、本当に緑の山しか残っていないくて、しかもそれがグスクでそのまま残さなきゃいけない。これを公共でやるのはもう事業としては破たんしますので、当然そこは従前公共扱いで先替えせざるを得ないと。今その西普天間住宅地区というのかなり斜面緑地の率が多いところでありまして、いじればいじる程お金がかかるという構造になっているので、それはもう緑地で残さざるを得ないのですが、だったらそこをはずせばということもあり、斜面を持っている地権者さんもやはり区画整理事業として宅地をお持ちになりたい方もいるので、先替えて霜降りになってしまう。やはり区画整理事業で解かなきゃいけないということと、これはまだ解けていないと思うのですが、今の借地料って面積なんです。土地の状態とか斜面地とか場所とかは関係ないので、土地評価がものすごく落ちる可能性があるが、そういったものを考えながら区画整理事業でできる方向で考えていかなければいけないと考えています。</p>
メーカー①	<p>先程雇用創出の話が少しありましたが、そこで書かれている医療とオーシャン・フロント・リゾートで観光というのをイメージされていると思うが、他に産業を呼び込むようなことは考えられているのでしょうか。</p>
進行役	<p>広域構想の中に想定する産業・機能タイプということで星取り表がありまして、例えば普天間飛行場であればこういった産業が馴染むのではないかと、一応検討はされています。ただこういう事業者さんが興味を示しているということではなくて、立地特性だとか土地の広がりとか、そういうことからこういうことが考えられるのではないかと、ということです。</p> <p>やはり普天間飛行場のこのエリアは中心的な場所になりますので、かなりほとんどの可能性は挙げて探って行きたいという形ですかね。何となく話が出るのは医療というのは何となくいろんなところから出てくるので、1つあります。当然ながらあと観光ですね。あと沖縄大学院大学というのがあるんですが、先端の技術大学ですが、そこもそういうライフサイエンス系の研究をされているところですよ。そういったところも関係があるということですかね。</p> <p>あとは仕立て方なのだが、例えば国際物流みたいなものには〇は付いていないが、物流の倉庫などは港の方になるんですが、普天間飛行場が那覇のビジネス需要をここで受け止めるというような話になれば、例えば本社機能、営業所機能みたいなものが来れば、そういったものも別に排除するわけではないということと、委員会の中で提案しているのは、今沖縄には 3 つの経済特区があるが、そういったものの範囲として、この地域を掛けてもらうとか、今の制度を最大限活用して、税制優遇であるとか助成金措置を受け取れることが民間企業さんの投資を呼び込むのではないかと、議論は、もちろんしております。</p>
ゼネコン	<p>中間取りまとめの内容が十分わかっているわけではないので恐縮なのですが、今ご説明がありました広域構想、それが 25 年の 1 月でございますね、それから今ようやく中間取りまとめを策定されるということで、この中間取りまとめの意味、位置づけはこの広域構想に乗っ取って広域で構想されたものを、この普天間基地の跡地について具体化して、各論と言いますか、やろうとするとこういう風になるのでこういう内容を実施したいという位置づけと考えるとよろしいんですか。</p>
沖縄県	<p>必ずしも広域構想を全部反映したというものではない。広域構想は広域構想で沖縄県が主体的に作成した計</p>

発言者	発言内容
	<p>画であって、この全体計画の中間取りまとめは沖縄県と宜野湾市がずっと取り組んで来た調査とかをまとめた内容で、取りまとめの役割としましては、沖縄県民、地権者との合意形成の促進だったり、県内外へ向けての跡地利用情報の発信だったり、今後の計画づくりの推進ということで役割を持っておりまして、性格としましては現段階でやられる、計画状況に基づく中間段階の計画として、今後新たな計画に基づく計画更新も前提としているということで、これはあくまでも沖縄県と宜野湾市が進めて来た調査を取りまとめたものが中間取りまとめで、ここにあくまで広域構想というのは沖縄県がまとめていて、これを元に跡地の基本計画を策定するのは各市町村の役割なので沖縄県がそうしろというのではなく、あくまで指針を作って、これを元に計画づくりに反映して頂きたいというのが広域構想の位置づけになっておりますので、必ずしもこれが全て中間取りまとめが反映されているわけではなく、これを元に作って下さいという位置づけではなく、あくまでもこれは沖縄県と宜野湾市が続けて来た調査の取りまとめということになっています。</p>
進行役	<p>一見似たような図面だし、わかりにくいところがあると思います。当然、整合は取れていて、沖縄県と宜野湾市の方針に基づいて、だんだん具体的な検討に入ってくると、役割が沖縄県から宜野湾市に移っていくんですね。ただ普天間飛行場については大きくて、インパクトも大きいということで、沖縄県・宜野湾市が共同で今やられているという状況です。</p>
宜野湾市	<p>それは整合を取っています。緑のパンフレットの裏のところにフロー図が載っているんですけど、この真ん中の基本方針の策定という中段のところに、中間取りまとめというのがあって、その中間取りまとめというのは、広域構想も踏まえた形で中に入れ込んだ形で考えています。</p>
ゼネコン	<p>そうでないと例えば広域の交通網とリンクしてない等、この中だけ計画しても意味がないわけですよね。</p>
宜野湾市	<p>そうですね。沖縄県が計画したのは、土地利用計画というのは当然地権者の意向もあるので、構想に全て集約するよというのではなくて、広域構想と整合性を取りつつ地権者さんとの意見交換をして行きながら少しずつ枝葉を付けて行くイメージとなります。</p>
ゼネコン	<p>先程調査の結果を取りまとめたとおっしゃっていたが、おそらく内容としてはそれよりも進んだ強い内容になっていて、これが実現可能であればこの形でぜひ実現したい、言ってみれば調査の結果というよりは方針なり施策だということだと思うのだが、そういう理解でよろしいですか。</p>
宜野湾市	<p>そうですね、元々普天間が返って来た時に、国も沖縄県も宜野湾市もやって基本方針まで作っていただきました。そういう意味で様々な沖縄に対する法律が変わったり、先ほどの地代の延長が入ったというのは、沖縄県・宜野湾市・各市町村が連携し、国に対してずっと要望して来たことがこれに反映されています。中間取りまとめというのはそういう意味で、もちろん沖縄県と宜野湾市だけではもちろん無理ですので、国に対しても今こういう状況で進んでいますよというのを言いながら、沖縄県も宜野湾市も一緒にやってくるのにこれはまあある意味地権者や市民にも伝えながらやってくるということです。</p>
ゼネコン	<p>そうしますと広域の交通網なんかは可能な限りこういうものを設けたいということで、先程の鉄軌道なんかも非常に素晴らしいと思うんですけども、そういう施策なり方向性、方針なりを明確に出そうとしているという理解でよろしいですか。</p>
宜野湾市	<p>あくまでも中間取りまとめというのはこれまで沖縄県や宜野湾市が取り組んで来た内容を1回取りまとめて、企業の方とか市民、県民、国民の皆様に見て頂いてどういう意見があるのか調べるというのが一番のスタンスで、普天間飛行場は文化財以外の調査が入っていないので、どういった空洞があるかとか、このパンフレットの</p>

発言者	発言内容
	<p>中にもかなり書いてありますが、鍾乳洞大地になっていて、実際どの位空洞がどれ位あるかわからないということもあって、鉄道がどういうルートで通れるかわからない中で、わかっている情報でまとめたというのが中間取りまとめで、実際これを今後は皆さんのご意見を伺いながら、企業としてこういう風にやって行くのであれば参加しやすいというような意見を訊くためのツールとして、取りまとめということです。</p>
進行役	<p>中間取りまとめの裏にもっと詳細な計画があるんじゃないかと思われるかもしれませんが、それはなくて、あとにも先にもこれしかない。これもまだ決まったわけではなく、皆さんのご意見を伺っている最中なので、フリーハンドの部分もかなりある。</p>
ゼネコン	<p>そうすると理想形なのかあるいは期待値、希望値、そのいったものか。</p>
沖縄県	<p>いろいろな可能性を残して一旦取りまとめて皆さんの意見を窺う段階に来ていますので、こういった企業の方々や地権者の方々の意見を聞くために出したというものです。今後先ほどの鉄軌道の話とか広域道路ですとか、沖縄県の方で別の部署になりますけれども、鉄軌道について検討している部署がありますし、広域交通の検討をしている部署がありますので、そことも連携を取りながら今後の計画の具体化に反映させて行く形で、ゾーニング等を具体化する予定ではあります。</p>
ゼネコン	<p>多少また先の話になってしまいますが、例えば鉄軌道といった時に事業主が誰になるのかとか、それから事業性はどうかお考えだとかいろいろやり出したらきりが無いと思うんですが、そうは言いながら逆に言うと公共交通であるバスだとか自動車だけではなく、大量の公共交通を生み出そうという上でこういうものが成り立ったら良いという考えという理解でよろしいですか。</p>
進行役	<p>事業性等につきましてはこのプランニング自体が事業化の検討まで至っているというわけではありません。先ほど言いましたように鉄道の部分については、それぞれその事業化、事業性の検討に付いては、また別途となります。その結果が出ているわけではないというのがあります。ただ事業性というのはまた違う世界というのがあるんだと思っていますので、沖縄県の場合また特殊な事業がありますので。</p>
ゼネコン	<p>どうしても成り立たせたいんだったら上下を分離して、下の方はなるべく負担させないとか、やりようはあると思うんですよ。</p>
進行役	<p>そうですね。鉄道事業なんかについても、今までの負担金では事業がパンクしてしまうケースがかなり多くて、例えばつくばエクスプレスなんかだとかなり国の手厚い、開発利益だけでは難しいことは、わかってきているので、その辺は色んなやり方があると思っています。</p>
総合デベ①	<p>質問というよりは考え方になるのかなと思うが、全て順調という言葉が適切かどうかは別として、早く進んでもおそらく上物の着手をするのに 10 年後だとか、そういうスケジュールになるかなと思うのですが、あまりにも大きな 470ha という敷地と長期にわたるプロジェクトということで、そういう基本計画だとかそれに基づいていろいろ都市計画だとかいろんな計画を見直されるとは思います。それが要は一言で言うとフレキシブルに後で柔軟にいろんな難しい手続きを踏まずに、あまりにも簡単だとそれはそれで問題はあるでしょうけれども、要は人口構成だとか社会の構造の変化だとか産業の変化だとかに合わせて、ある程度柔軟に変えられるような制度も、最初から盛り込んでおかれた方が良くないかなという気がちょっとしております。今までの 20 年と、今後の 20 年って全く僕らの経験していない社会に入っていくと思うので、経験していない変化が生まれると思うので、そういったものを最初から盛り込んでおかれた方がおそらく参加する事業者としても良いと思うので、最初に決めた計画が変更できる制度、仕組みをどこかで考えておいて頂きたいなと思います。</p>

発言者	発言内容
進行役	それが一番です。
総合デベ①	<p>あとは歴史とか文化をあまり充分に知らない私もからすると、どういうまちづくりをするのかという個別の話にはなかなか踏み込めないところがあるので、やっぱり歴史や文化に根付いたまちづくりでないと長続きしないでしょうし、そこは多分こういった形でまとめられているのだと思いますが、これをより一歩進めた自主計画に向かわせるには、今の話を伺っていてわかったのだが、あまりにも網羅的過ぎるなという印象を受けていたので、これは進めて行く中で、これで産業振興しますと言った時に、先程あったような創薬系を呼んで来る云々といっても、本当にそれで何社も来てくれるのか。それを一番のプライオリティに置くのだったらそれに合わせたまちづくりが必要。創薬だったら研究者が各国から来るでしょうから、そういった研究者、外国人がみんなストレスフリーで暮らせるコミュニティを作らないといけないので、そういう形で何にプライオリティを置くかでどこかでものすごく絞り込まないといけないので、それをどの時点でやるかというイメージをこういったスケジュールの中に落とし込む必要があるのかなという気はします。合理性を考えると、なかなか 3,300 人の地権者がいると、そう簡単ではないと思うので。</p>
進行役	<p>本来我々もこのお手伝いをした時に、土地利用に関しては白で考えて下さいとお伝えしたんですね。ただ白ですとなかなか皆さんにお話する時にイメージが湧かないというところがあって、「例えば今こういうイメージで考えている」ということはやはり伝えた方が良くと思った。それができるかできないかは、その時代時代の経済情勢や背景によってももしかしたら違う風に転換することもあるかと思うのですが、こういう中間取りまとめの中でも今後の取組みを踏まえて更新して行くことを前提としますというのは、実はまだ決まっていないということです。ただ、今の時点でものを考えるとこういうまちづくりが望ましいのではないかと。決まった段階で色を付けて行くんでしょうねと。一気にできるわけではないので、長いスパンの中でうまくかえながらということには当然なるということです。</p> <p>絞り込みの議論に関しては、例えば今、国家戦略特区で左右されるかどうか知りませんが、大学院大学の外国人の研究者の滞在ビザとかも緩くしろとか、規制緩和みたいなことも言っているので、まあ多分そういうことが基本になるかと思いますが、また例えば外国人の方の医療行為を認めるとか何かやって行かないと、医療というテーマでも、「何ができるの？」ということになってしまいます。それも今後の検討課題かなとなります。メーカーさんとかでこれだけの規模があるとどうということが考えられるねとか、先程も若干、供給処理とか情報通信みたいなやつとか総花的に何でも入っているのだが、こういうことが考えられるんじゃないかとか、これは地上のものだが地下に埋まっているもので他に考えられることがあるのではないかとか、そういうご意見はありますでしょうか。あるいは公共交通みたいなので先程の鉄軌道を中心にその TOD みたいなことを考えた時に、その先のフィーダー交通みたいなものが実はありまして、これは建てるかどうかわからないんですが、今沖縄コンベンションセンターというのが実は西海岸にあって、沖縄県は今大型 MICE 施設を建設する計画が出ています。その候補地の 1 つとして一応宜野湾市さんも手を挙げている。そういった大型コンベンション施設になれば当然ながらそういった公共インフラみたいなものも整備して行かないといけない。多分当面はバスしかないということでもいずれ鉄道が来るということになると、フィーダー交通ネットワークと合わせてそういうことも考えられるかどうかというのがありまして、そういった観点からこういうことを考えられるんじゃないかとか、そういったご意見があれば伺えればと思いますが、どうでしょうか。</p>
メーカー③	<p>今の議論から少し外れてしまうかもしれないが、沖縄県の方で策定頂いた想定する産業・機能タイプのところで 1 つ特徴的なところが、普天間飛行場跡に関してざっと見てみますと、他の地域と比べて環境・エネルギー産業というのが二重丸が付けられているという特徴性が見受けられるかなと。これはどういった想定を入れられて二</p>

発言者	発言内容
宜野湾市	<p>重丸ということにしたのか、ご参考にお聞かせ願えればと思うんですが。</p> <p>おそらくなんですが、高台、海拔 80m 以上位に位置しているので、ある程度平地はあるんですが、そういった部分にメガソーラーだとかの可能性もありますし、白いパンフレットの 16 ページの中頃の③にもあるが、再生可能エネルギーへの転換と連携した電力供給施設の整備というような中に、普天間は要は市街地のど真ん中に位置していて、ここを開発するとなると宜野湾市全体を変えて行くイメージになるので、そのタイミングで宜野湾市全体をスマートシティ化して行くという考え方ができるので、他の地域というのは一部返還だったり市街地の真ん中ではないので、宜野湾全体と考えた時に基盤整備ということでスマートシティ化ができる。全体を作り直せるというイメージでここだけ二重丸になっています。</p>
進行役	<p>あと圧倒的な緑がある。緑をただの緑に置いておいても価値を生み出さないのか、緑が価値を生み出さないかとかかなり有識者委員の中からも出ました。緑がただ周りを囲んでいるのではなく、それを生かして研究開発だとかもあるのではないかと。まだいつ返って来るかなかなか時期がわかりにくいという状況の中で、二次開発をやるデベロッパーさんなどは少し長期的に見て頂ければと思うのだが、例えば今日金融機関の皆様にもお出で頂いているが、金融機関のお立場としてこういう開発ができるのではないかとのご意見や、何かご質問等があればお願いします。</p>
メガバンク①	<p>金融の出番というのがどのタイミングなのか、少し先の話かなと理解しておりますが、今 PFI とか PPP という取組みが、いろんな国を代表するエリアで取り組まれていて、そういう民間資金の活用というような視点も、普天間の事業の中に入れられることで、間接的にはあると思いますけれども、オールジャパンで街の整備を応援するというような方向性もこと出るのかなという漠然としたイメージを持っておりまして、資金面は今後の展望はこれからだと思いますけれども、どのようなお考えを持っておられるのかが気になるところです。</p>
宜野湾市	<p>多分これに関しては全てが公共で賄えるものではないと思っておりますので、先程の 3,000 名近くの地主の方は 90%が各地の地主会に所属しており、宜野湾市でも宜野湾市の地主会に属しています。今回少し法律が変わって地代が少し伸びたというので、地権者もいろいろな考え方があります。今までの跡地は、地権者はすぐに地代に代わる利益を上げなければいけないということで、個人で動いたりとか様々です。そういう関連で、地権者の共同利用というか、新たな地権者組織ということで、同じ利益を持った方々が組織化しないということで、地主会としても少し考えている時期に来ているというのを聞いています。その辺で、うまく地権者個人個人の方と皆さん方とのニーズが合えばその辺もできてくるのではないかと。土地利用が具体化すればするほど、皆様に来て頂いて「こういう活用の方法もあるのではないかと」ということで、地権者の方も様々な勉強会とかをやらないといけないと思っておりますので、これからもっと具体化して、様々な個人個人の地権者がいるということで、なかなかほとんど大地主という人が少ない。地代も 100 万円とか 200 万円というのが過半数で、うまく行くにはいかに皆さんが共通認識を持って、新たな地主会に代わる組織づくりをして、これが様々な土地利用だとかに展開して行くんじゃないかと思っておりますので、その辺は宜野湾市も特に重点的にやって行かなければいけないと思っております。</p>
進行役	<p>全然違う視点なんですけど、皆様方が海外の事業者さんとお付き合いがあると思っております、例えば沖縄で海外の事業者さんはどういう風にお考えになるのか、海外の事業者なのでハッキリとはわからないと思うが、こういうことを考えるんじゃないか、こういうことに興味があるんじゃないか、そういう視点があればご紹介頂けるとありがたいのだが、いかがでしょうか。</p>

発言者	発言内容
総合デベ②	ちょっと時間軸が難しいんでしょうね。
進行役	もっと短いサイトじゃないと考えられないということでしょうかね。
総合デベ②	ええ。
進行役	もう少し具体的になってからでないと、ということでしょうかね。
総合デベ②	そうですね。
進行役	逆に言えば、時間があると言えばあるので、すぐに迫っているとそこで考えられることは限定されると思うが、何しろこういう状況なので、例えばこういうことを盛り込んでおくこんな競争力があるこの場所ならではの開発ができるという視点は無いでしょうか。さっきスマートみたいな話が出ましたが、部分的なスマートではなくて、500haのスマートという大規模だと思いますが、そういった観点からどういうことが考えられるとか、そういうことはないでしょうか。
メーカー①	エネルギー関係はあると思う。いろいろな宅地関係、医療施設と、その地区、地区で集散的にエネルギーを管理して流行りのスマートシティみたいなものもあると思う。あと軌道交通が走るということで、そこを拠点とした新たな交通モビリティの考え、こういった緑を基調にしているということであれば、電気自動車、電気バス等を使って、まあここにも書いてあると思うが、エコシティという面はあると思う。防災の観点からも、例えば電気自動車から電気を供給するような話もある。 防災、それからエネルギー、モビリティ含めて、セットで考えられるのではないのでしょうか。
進行役	主体となられる事業者、エリアマネジメント、よく出ているのは地権者さんの土地活用、地権者さん一人一人が貸すということではできない事業だと思いますので、ある程度まとめてやると考えると、そういったことをやってあげる組織も必要なんだろうということもありまして、例えば今のエネルギーだとかやることが一杯あればあるほどエリアマネジメントは成立性が高まるのではないかなと思っているが、そういったことで実際今やられている事例などがあれば、どうですか。
総合デベ①	ここまでさすがに大きくはないですけど土地区画整理事業で、共有地と言いますか歩道をたしか行政に帰属させないで、共有の遊歩道というのを、あれはたしか組合に持たせる形になっていたから、おそらく最後は民事信託方式にして、そこでずっと管理をして行く形にするのが一番良いのではないかと議論した記憶はあるが、最終的にどういう形にしたかは記憶にないが、たしかあれは信託法の改正の前だったので、できる・できないは法改正との絡みのタイミングでどうのこうのと議論した記憶があって、何を言いたいかというと、多くの地権者さんが関わる共有地の管理の仕方はある程度法で担保される形にしないと、おそらく法で担保というのは、そこから先個人の相続とか破産まで考えるとスムーズな手続きで、そういう障害を除けるような法的な担保の制度に任せた方が良くて、そういった意味では信託とかそういった手法も考えるべきかなという気はします。いかんせん瑞慶覧の150haは何となく私どももちょうど大きな土地区画整理事業や大きな戸建開発って50万坪が最大位なので、何となくイメージは浮かぶんですけど、普天間だと100haの公園だとしても120万坪くらい…どの位のサイズのまちなになるのか今ひとつピンと来なくて。
進行役	どういったやり方なら500ha弱をやっつけられるかという点で、組み立て方であるとか、宜野湾市だけでも難しいと思うし、民間事業者でも、どういったことならできるかもしれないというアイデアがありませんか。結局なかなか皆で組んでやったことがそんなにないので、どうやろうかというのがあると思うんですけど、これだけの規模だと1社では無理だと思いますし、その辺のアイデアは何かあるでしょうか。実際大きいデベロッパーさんが何か組んでやられる大規模開発事業みたいのもありますよね。

発言者	発言内容
総合デベ①	おそらくそもその土地区画整理事業の事業性があるかないかにもかなり関わると思うんですけども、先程の地代の話もいろいろ伺っている中で、なおかつ2割が公園云々という話を伺っていると、地権者の方にとって感情的な問題だとか、先祖代々云々等という話は横に置いて、純粋に経済合理性だけで見ても、成り立たせるのはかなり難しいかなという気がしていて、その中でデベロッパーの取り分がどのくらいあるか。おそらくそれがある程度ないと複数のデベロッパーは入って来ないでしょうし、強力な推進役がなかなか出て来ない。処分地のところが少なくなると強力な推進者が現われにくい事業になってしまう。現われやすくすると地権者の経済状況が悪くなって行くので、なかなかそこが難しいかなという第一印象があります。
進行役	ただ、処分地が少ないと言っても500haあるので、どのくらいあるのかなと思うんですけども。
ゼネコン	地権者さんに自ら活用したいという方あるいは処分を考えている地権者さんとかいろいろと意向があると思うんですが、だいたいどんな感じなんでしょうか。ほとんどは自己活用なり有効活用したい、あるいはそこに新たに住宅を建てて住みたいという地権者さんが多いんでしょうか。
宜野湾市	過去に2回位普天間では地権者に対して大きいのをやっています。2年前にやったのは、中間取りまとめに向けてどういう意向があるのか探りたいと思ってやったのだが、実際の所、「今の時点ではよくわからない」という人がほとんどだと思っています。これは、具体的にできていないからということですね。自分で使いたいというのは高齢者なんかにはいるが、実際自分の子や孫が使うだろうというのが1点と、その中で戻りたい人も何割かいたりとかして、その中で2~3年前から少しキーワードとして出ているのが、共同利用ということで、共同利用するにも具体的に示さないといけないということで、直々に地権者の意向は把握しないといけないと思っています。アンケートだけでも難しいでしょうしいろんな人と勉強会をしているが、企業にも来てもらって話も聞いてもらって積み重ねて地権者の意向を把握しないといけないのかなと思っています。
メーカー①	海外企業の意向について、実際今回の都市開発の件について日本の企業だけでなく海外の企業も受け入れようと体制があるからこそ、そういう説明があったんだと思いますが、沖縄という場所から政治的な問題がいろいろあると思うんですけども、指針と言いますか、こういった国であれば受け入れようとかいうものはあるんでしょうか。
宜野湾市	それはないんですけど、先程言った6つが返って来るとなった時に国の委員会とかでは普天間だけとか牧港だけ、港湾だけというのは、パッケージで考えるべきではないかというのを提案してもらって、様々な国内、海外とかのそういう形を取るべきではないかという意見が、さっきの委員会でも出ました。まだこれは具体的に決まっていないと思うんですが、沖縄県や宜野湾市がどういう風にして欲しいというのを国が取りながらやって行くとは思いますが、まだ方向性は見えていないと思っています。
進行役	一応情報発信としては、先程沖縄はビデオでもあったように東京よりも海外の方が近い。あれも英語版であるとか外国語版を作って情報発信するという方向ではいるんですね。どんどん海外からの投資が入って来て、土地を買われて、それで国を売るのかという話にもなりかねないんですが、そうは言っても海外を無視して国内需要だけで埋まるのかとは、実は思っていないくて、ある程度中国や韓国などからの観光客もかなり増えているので、そういうところも視野に入れながら考えて行かないといけないんじゃないかなというところではあります。先程言われたように、どういうところまで許すのかまではまだ考えができていないということがあります。
メーカー②	先程エネルギー産業のところでも再生可能エネルギーの可能性も聞きましたが、いろいろエネルギーマネジメント、電力需給の自由化等の話がいろいろ出て来る中で、今宜野湾市さんが普天間基地を中心に考えた時に、近隣自治体さんとの連携や協調というのは、その辺は視野に入れているのか、そこまでの話ではないのか。そ

発言者	発言内容
	れが全てに絡んで来ると沖縄県全体になって来るでしょうから、その範囲というのはなかなか難しいとは思いますが、普天間の跡地利用を地権者の方々と考える中で、当然地権者の方々も宜野湾市だけに住まれている方ばかりではないということなので、近隣自治体との何か連携というのもしかしたらおありなのかと思って、その辺があればお聞きできればなと思うんですけども。
宜野湾市	具体的ではないが、今回宜野湾市としては、西普天間というのは宜野湾市だけなんですけど、キャンプ瑞慶覧というのは実際、4市町村に跨っているんですよ。だから広域構想というのがまずあるというので、各市町村がどのように考えているかっていうのは、集まってもらう機会は、もちろん沖縄県に主催してもらっていますし、「今こういう状況ですよ」と報告する場を設けています。ただ、具体的にどうしようというところにはまだ行っていないが情報交換として、跡地を持っている市の間で担当レベル位では情報交換はしている段階くらいだと思います。
沖縄県	少し補足させていただきますが、全県的にそういう組織はあるが、今活発にやっているのは、関係6市町村の会議は数回で、担当レベルで話し合いはさせて頂いてまして、キャンプ瑞慶覧とか西普天間住宅地区は一部だけは返って来るんですが、当然近隣の4市町村にまたがっていますので、その4市町村を委員会の中に組み込んで、委員会の中でいろいろ意見を伺っているところです。
進行役	そろそろお時間が近づいて参りますので、本日の意見交換はこれにて終わりたいと思います。

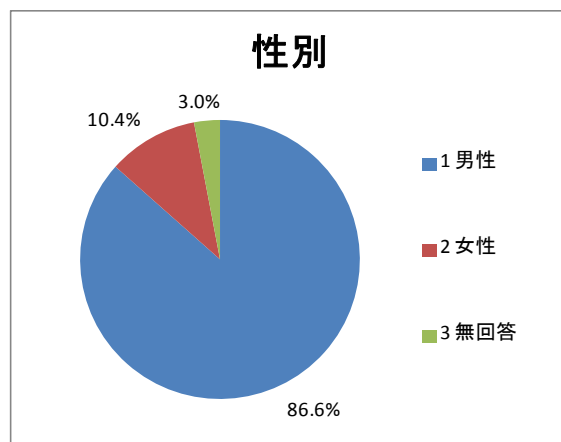
5. 県民フォーラム参加者へ実施したアンケート調査結果

1. 属性について

1) 性別

回答者の性別は「男性」が全体の86.6%、「女性」が10.4%となっている。

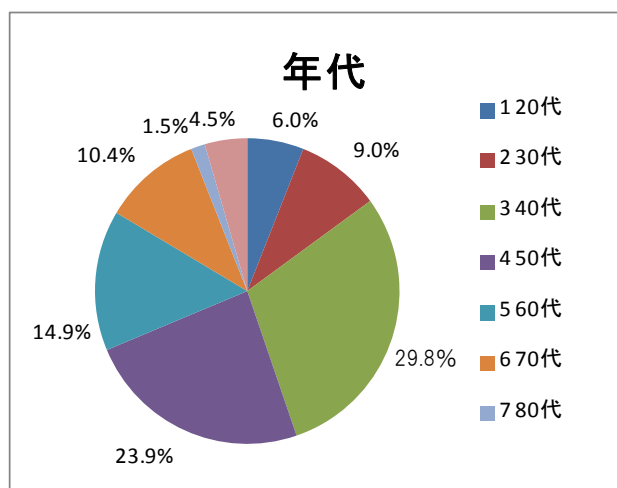
	性別	票	割合
1	男性	58	86.6%
2	女性	7	10.4%
3	無回答	2	3.0%
	合計	67	100.0%



2) 年代

回答者の年代を見ると、「40代」が全体の29.8%で最も多く、次いで「50代」が23.9%、「60代」が14.9%の順となっており、40～60代の参加者が全体の68.7%を占めている。

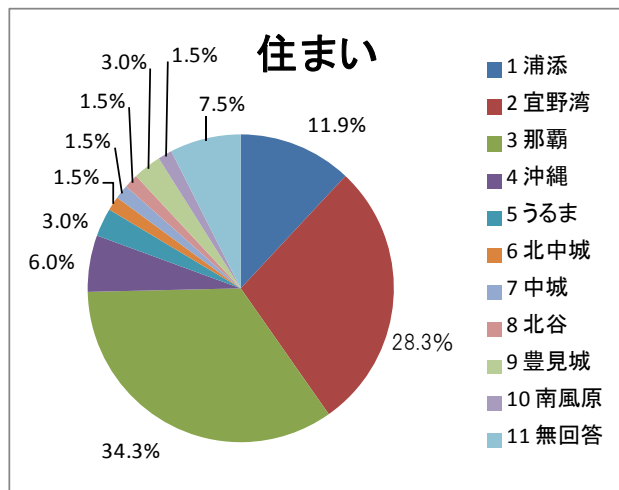
	年代	票	割合
1	20代	4	6.0%
2	30代	6	9.0%
3	40代	20	29.8%
4	50代	16	23.9%
5	60代	10	14.9%
6	70代	7	10.4%
7	80代	1	1.5%
8	無回答	3	4.5%
	合計	67	100.0%



3) 住まい

回答者の住宅地域を見ると「那覇」が全体の 34.3%で最も多く、次いで「宜野湾」が 28.3%、「浦添」が 11.9%の順となっており、上位 3 地域で全体の 74.6%を占めている。

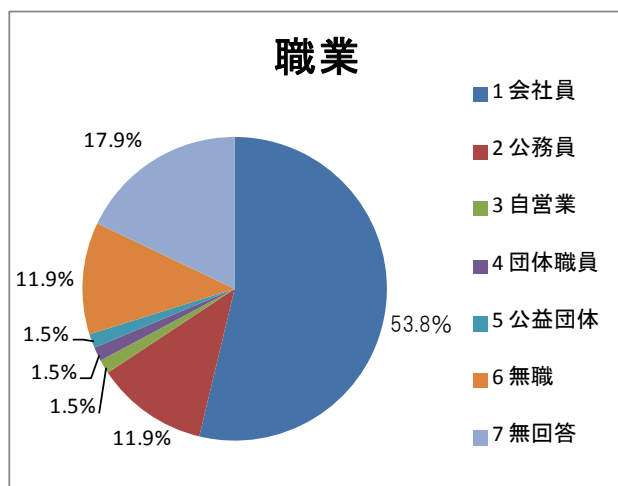
	住まい	票	割合
1	浦添	8	11.9%
2	宜野湾	19	28.3%
3	那覇	23	34.3%
4	沖縄	4	6.0%
5	うるま	2	3.0%
6	北中城	1	1.5%
7	中城	1	1.5%
8	北谷	1	1.5%
9	豊見城	2	3.0%
10	南風原	1	1.5%
11	無回答	5	7.5%
	合計	67	100.0%



4) 職業

回答者の職業を見ると「会社員」が全体の 53.8%で最も多く、次いで「公務員」と「無職」が同率の 11.9%で並んでいる。

	職業	票	割合
1	会社員	36	53.8%
2	公務員	8	11.9%
3	自営業	1	1.5%
4	団体職員	1	1.5%
5	公益団体	1	1.5%
6	無職	8	11.9%
7	無回答	12	17.9%
	合計	67	100.0%

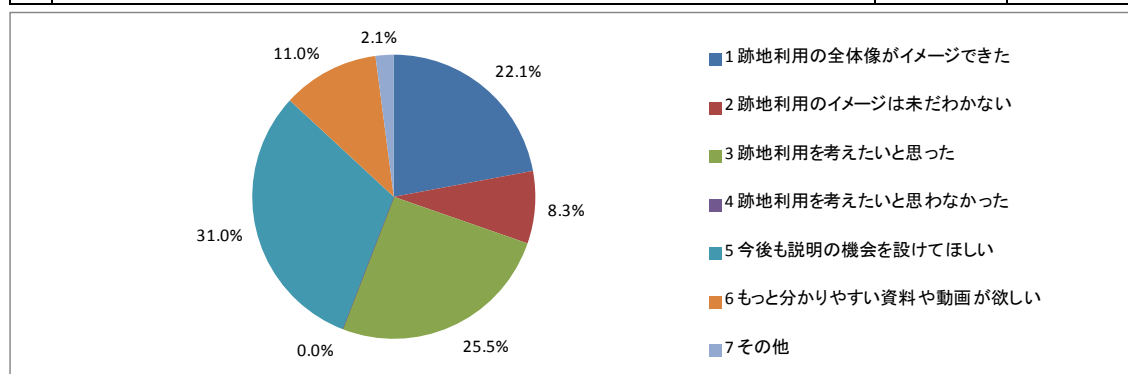


2. 問1について

問1 本日の県民フォーラムに参加され、基調講演やパネルディスカッションをお聞きになり、また、プロモーション動画をご覧になり、どの様にお感じになりましたか？（当てはまるあて番号に3つまで○をつけて下さい）

問1に関して、「今後も説明の機会を設けてほしい」が全体の31.0%と最も多く、次いで「跡地利用を考えたいと思った」が25.5%、「跡地利用の全体像がイメージできた」が22.1%の順となっている。

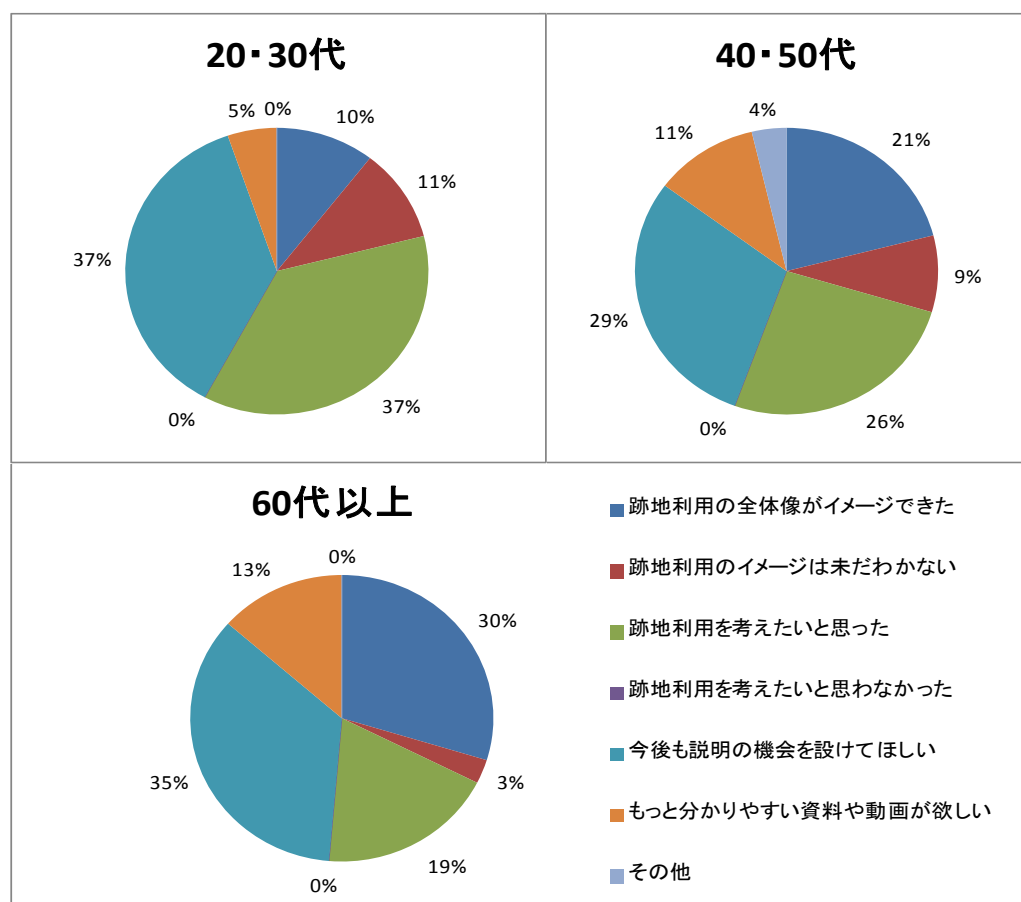
		票	割合
1	跡地利用の全体像がイメージできた	32	22.1%
2	跡地利用のイメージは未だわからない	12	8.3%
3	跡地利用を考えたいと思った	37	25.5%
4	跡地利用を考えたいと思わなかった	0	0.0%
5	今後も説明の機会を設けてほしい	45	31.0%
6	もっと分かりやすい資料や動画が欲しい	16	11.0%
7	その他	3	2.1%
	合計	145	100.0%



その他の意見

- ・ 基調講演の内容も資料にしてほしい
- ・ 方針図やCGは現実から離れている感じがあった
- ・ 大展望等、超高層ビルを作って、将来の沖縄産業（観光）に貢献して欲しい
- ・ 経済効果について過去のデータを基に、先の6施設返還の経済効果を説くのは無理がある。離島県であることや少子高齢化などで経済規模は減少すると思う
- ・ 高いポテンシャル、未来予想という希望を持てるキーワードに対し行政の責任を明確にしてほしい。新都心開発で失敗はないのか？普天間は行政がやりたいようにやる可能性はないか？

※下記に問 1 を年代別にクロス集計した結果を示す。



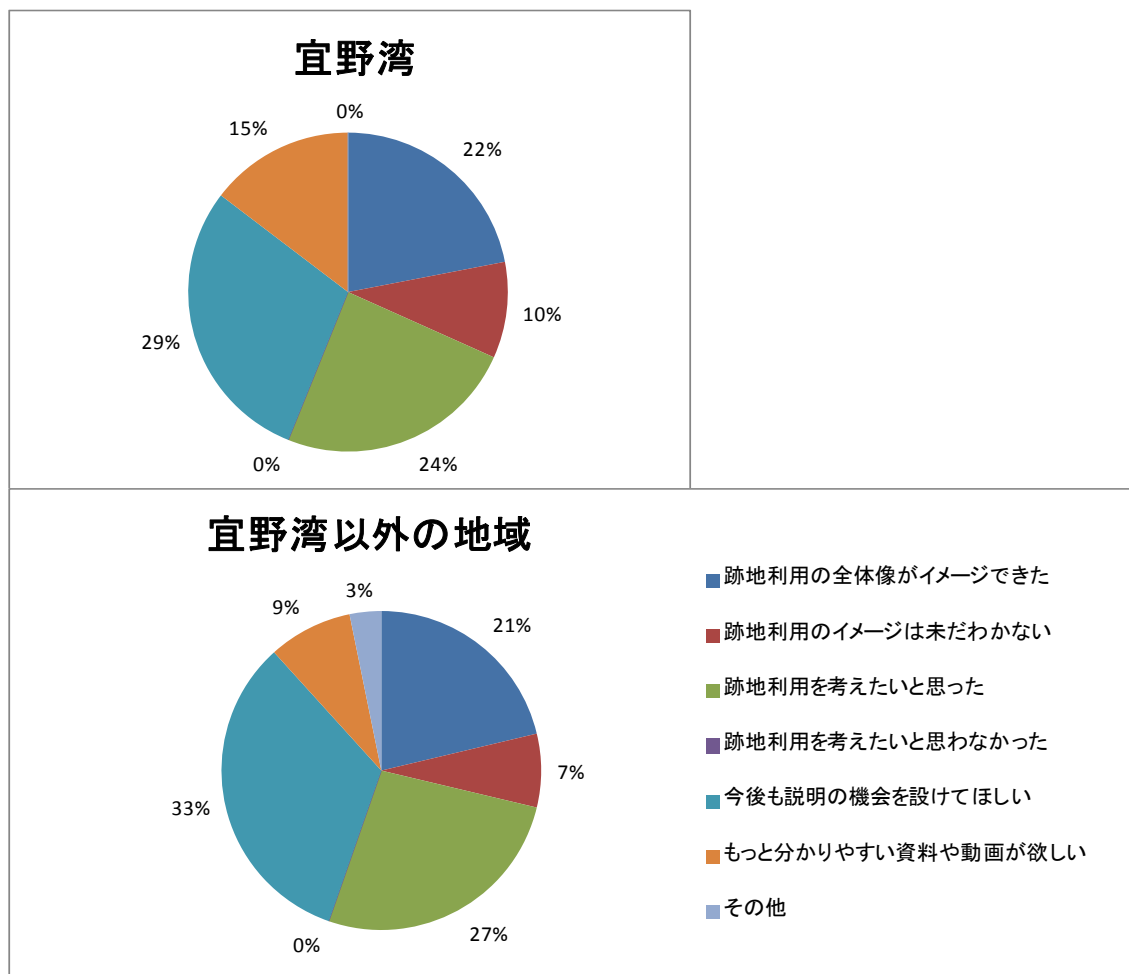
問 1 に関して年代別に見ると

- 20,30 代では「跡地利用を考えたいと思った」、「今後も説明の機会を設けてほしい」の 2 つの意見に大きく分かれ、2 項目合計割合が 70%以上を占めた。
- 40,50 代では「跡地利用の全体像がイメージできた」、「跡地利用を考えたいと思った」、「今後も説明の機会を設けてほしい」の 3 つの意見に大きく分かれた。
- 60 代以上では「跡地利用の全体像がイメージできた」、「今後も説明の機会を設けてほしい」の 2 つの意見に大きく分かれ、2 項目合計割合が全体の 75%を占めた。

全ての世代で「今後も説明の機会を設けてほしい」といった意見が多くあげられた。

年代が高くなるにつれて「跡地利用の全体像がイメージできた」、「もっと分かりやすい資料や動画が欲しい」といった意見が増加傾向にあり、反対に「跡地利用のイメージは未だわからない」は減少傾向にある。

下記に問 1 を地域別にクロス集計した結果を示す。



問 1 に関して普天間基地のある宜野湾市に住んでいる方と宜野湾以外の地域に住んでいる方の意見を分けて見ると

宜野湾市に住んでいる方では「もっと分かりやすい資料や動画が欲しい」といった意見が、宜野湾市以外の地域に住んでいる方に比べて 6%高かった。

その他の項目では両方に大きな差は見られなかった。

3. 問2について

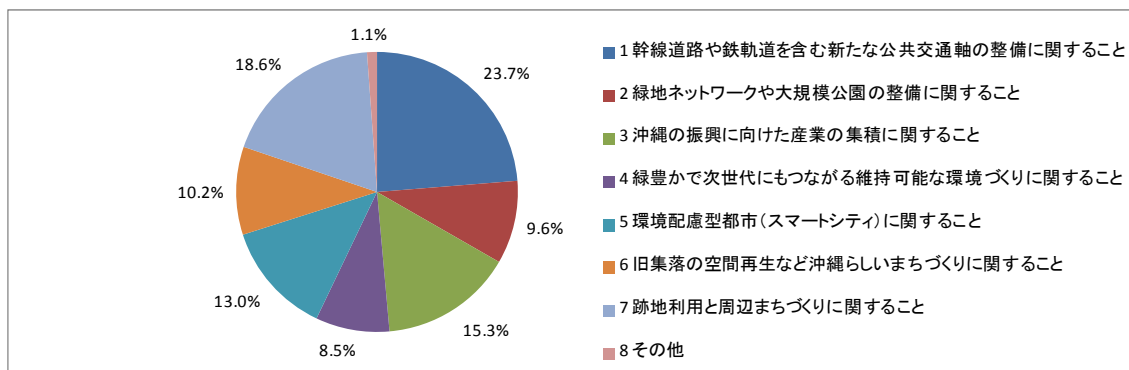
問2 今後も県民フォーラムを継続的に開催していきたいと思いますが、普天間基地飛行場跡地利用に関して、どの様なテーマを取り上げると良いと思いますか？（当てはまるあて番号に3つまで○をつけて下さい）

問2に関して、「幹線道路や鉄軌道を含む新たな公共交通軸の整備に関する事」が全体の23.7%と最も多く、次いで「跡地利用と周辺まちづくりに関する事」が18.6%、「沖縄の振興に向けた産業の集積に関する事」が15.3%の順となっている。

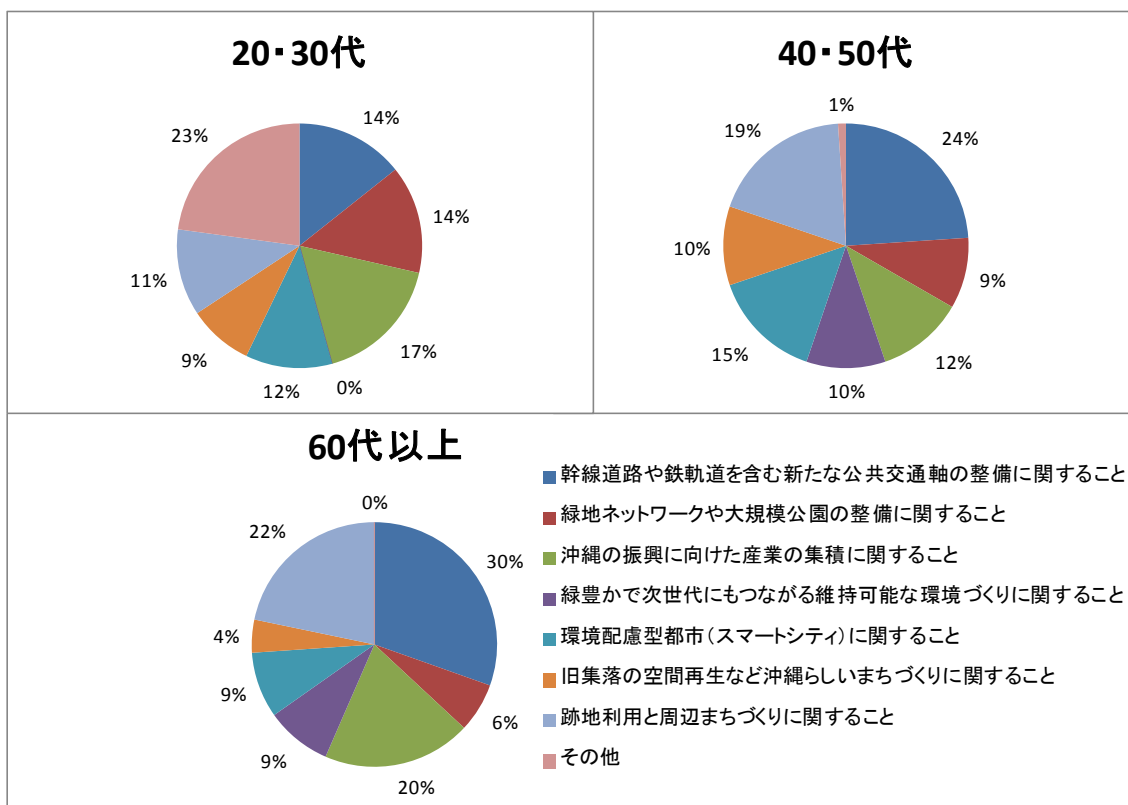
		票	割合
1	幹線道路や鉄軌道を含む新たな公共交通軸の整備に関する事	42	23.7%
2	緑地ネットワークや大規模公園の整備に関する事	17	9.6%
3	沖縄の振興に向けた産業の集積に関する事	27	15.3%
4	緑豊かで次世代にもつながる維持可能な環境づくりに関する事	15	8.5%
5	環境配慮型都市(スマートシティ)に関する事	23	13.0%
6	旧集落の空間再生など沖縄らしいまちづくりに関する事	18	10.2%
7	跡地利用と周辺まちづくりに関する事	33	18.6%
8	その他	2	1.1%
	合計	177	100.0%

その他の意見

- ・ 返還時期の明確化
- ・ 地権者との交渉の時期等
- ・ これからの社会を見据えた、まったく新しい都市形成について
- ・ 鉄軌道は最低でも名護市までは設け、宜野湾市、沖縄市を經由しての交通網を望む
- ・ 海外から人が集まることを最優先する。県人口の10倍目標
- ・ 基地は悪いというイメージはあるが実際アメリカ文化が入ってきたことでチャンプルー文化も発展してきたと思う。新しい町、旧の町、チャンプルーの町の文化が共存する町づくり。チャンプルー文化も観光の魅力の1つだと思う



下記に問 2 を年齢別にクロス集計した結果を示す。

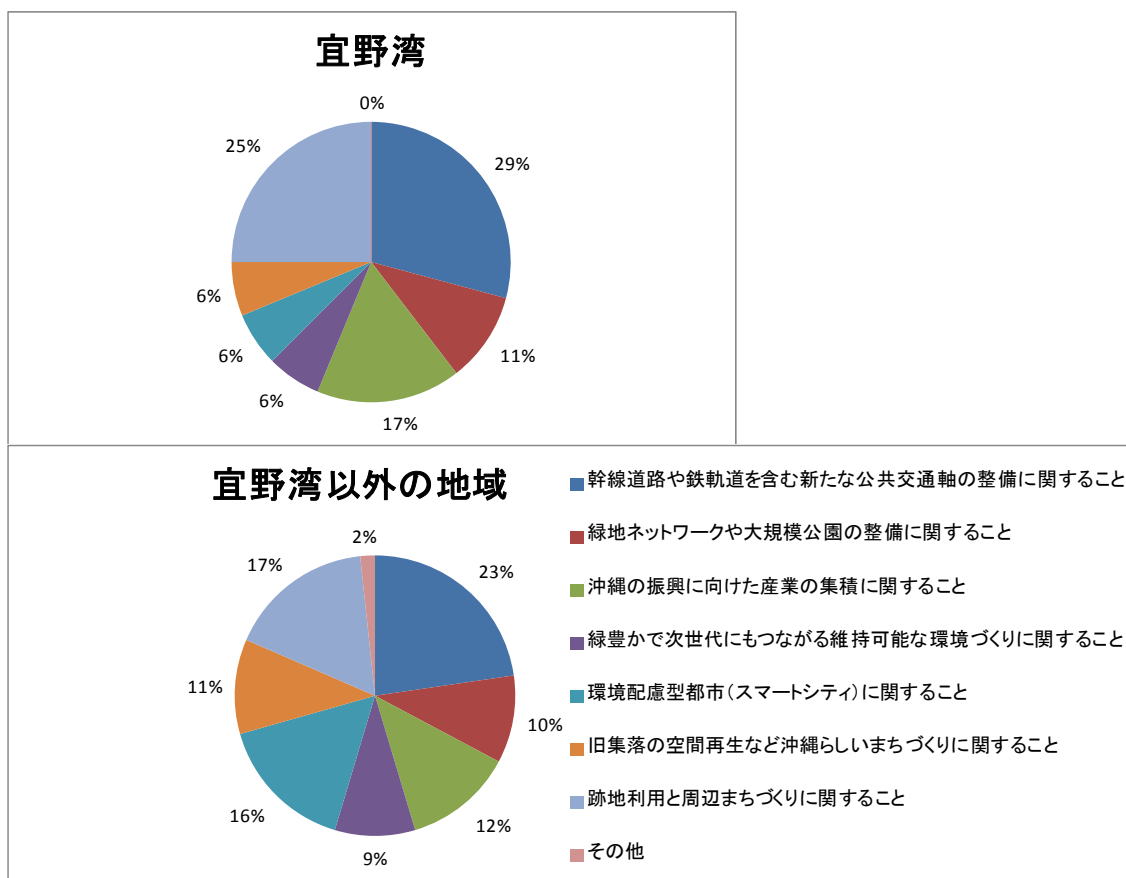


問 2 に関して年代別に見ると

- 20,30 代では「その他」を除き、「幹線道路や鉄軌道を含む新たな公共交通軸の整備に関すること」「緑地ネットワークや大規模公園の整備に関すること」「沖縄の振興に向けた産業の集積に関すること」の 3 つの意見に分かれた。
- 40,50 代では「幹線道路や鉄軌道を含む新たな公共交通軸の整備に関すること」「環境配慮型都市（スマートシティ）に関すること」「跡地利用と周辺まちづくりに関すること」の 3 つの意見が多く、3 項目合計割合が全体の半数以上を占めた。
- 60 代以上では「幹線道路や鉄軌道を含む新たな公共交通軸の整備に関すること」「沖縄の振興に向けた産業の集積に関すること」「跡地利用と周辺まちづくりに関すること」の 3 つの意見が多く、3 項目合計割合が全体の 70%以上を占めた。

年代が高くなるにつれて「幹線道路や鉄軌道を含む新たな公共交通軸の整備に関すること」「跡地利用と周辺まちづくりに関すること」が増加傾向にあり、「緑地ネットワークや大規模公園の整備に関すること」が減少傾向にある。

下記に問 2 を地域別にクロス集計した結果を示す。



問 2 に関して普天間基地のある宜野湾市に住んでいる方と宜野湾以外の地域に住んでいる方の意見を分けて見ると

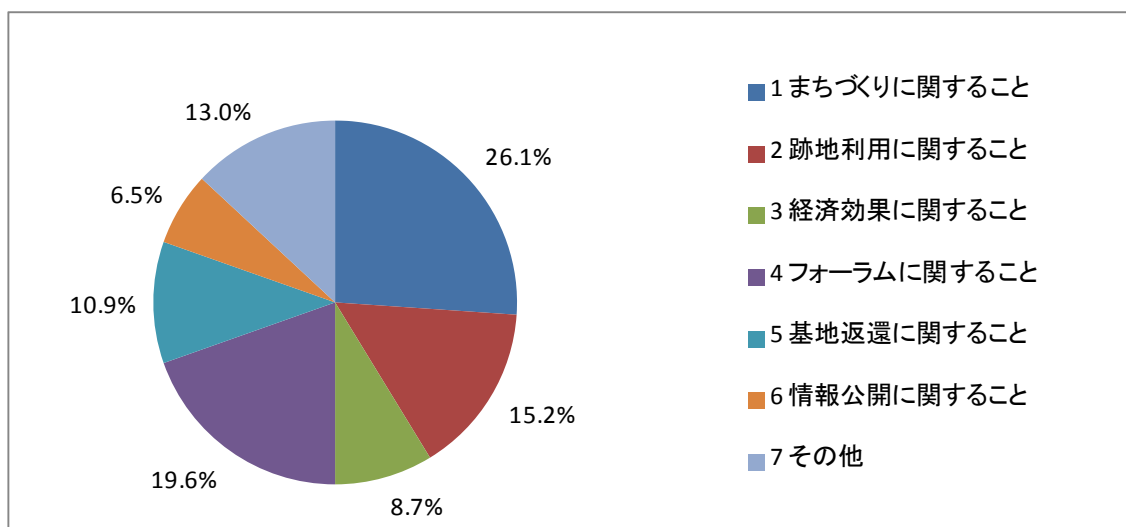
- ・宜野湾市に住んでいる方では「幹線道路や鉄軌道を含む新たな公共交通軸の整備に関する事」「跡地利用と周辺まちづくりに関する事」「沖縄の振興に向けた産業の集積に関する事」の 3 つの意見が多く、3 項目合計割合が全体の 70% 以上を占めている。
- ・宜野湾市以外の地域に住んでいる方では「幹線道路や鉄軌道を含む新たな公共交通軸の整備に関する事」が 23% と最も多いが、全体的に見ると意見が偏っておらず、意見の差は少ない。

4. 問3について

問3 その他、本フォーラムの感想やあなたのお考え等を自由にご記入ください。

問3の内容を以下の7つに分類すると、『インフラの整備』や『沖縄の発展』といった「まちづくりに関すること」を述べた意見が全体の26.1%と最も多く、次いで『プロモ動画が抽象的』や『勉強になった』といった「フォーラムに関すること」を述べている意見が19.6%、『返還跡地の課題』や『誘致したい施設』といった「跡地利用に関すること」を述べた意見が15.2%の順となっている。

	自由欄(分類)	票	割合
1	まちづくりに関すること	12	26.1%
2	跡地利用に関すること	7	15.2%
3	経済効果に関すること	4	8.7%
4	フォーラムに関すること	9	19.6%
5	基地返還に関すること	5	10.9%
6	情報公開に関すること	3	6.5%
7	その他	6	13.0%
	合計	46	100.0%



自由意見の内容

「まちづくりに関すること」

- 宜野湾市愛知（宜野湾小学校近く）に住んでいるが、コンベンションに来るまでにかかなりの遠回りを余儀なくされ、極めて不便な思いをした。ぜひ横断道をつくって欲しい
- もちろん建物、道などもどんどん出来ていくと思うが、ちゃんと力（資格、免許等）を持った業者に設計して欲しい（未来に残るものとして）
- 特に緑被率、利便性、快適性の高い住宅街、商店街、生産エリアの明確な都市ゾーニングと計画を立て、先進国の事例も参考にしつつ、沖縄の気候風土と調和したまちづくりが重要。中南部との総合的調和も最重要と考える
- 481haの広大な土地の再開発なので、商業施設の集積など過去の返還地の手法にとらわれることなく、沖縄の地理的条件に合致した街づくりを希望する。
- 行政、政治家、資産家ではなく、生活に苦しむ人や身障者、子供などの弱者が中心であり、主役となるような街をつくることも考慮して欲しい
- 初めて参加した。宜野湾市で生まれ39年間ずっと住んでおり、物心がついた頃には普天間飛行場は当たり前であって、空を飛ぶへり、慢性的な渋滞はそんなものだと思っていた。しかし、他県に行けばインフラが整備され、まちづくりが効果的に整備された素敵な街がある。今後、普天間飛行場が返還されたあと、そのような街をつくるかがとても大事だと感じた
- 県人口が急に増えるとすれば発展もするかもしれないが、流動化だと沖縄市みたいになってしまうのでは？
- 移住受け皿整備が過剰になれば北京になってしまうのか？（ゴーストタウン）
- ②那覇飛行場から普天間飛行場の中心地まで25分くらいで行けるような交通網にしてほしい（モノレール、湾岸道路の二走行
- 既に返還された施設（地域）を参考事例にするのも良いが、他国の視点に学び、近代的な魅力ある街づくりを模索し、創造して、特色あるほかに類を見ない画期的なモデル都市を創って欲しい
- 鉄軌道は沖縄には必要ない。バスを中心に公共交通ネットワークをつくるべき
- 次世代に有益なコンパクトな環境配慮型の都市づくりを目指してほしい。投資だけ重視した方策はリスクも大きいと考える。身の丈に合った方法でやる必要がある

「跡地利用に関すること」

- やや理想が先行しているように思えた。那覇新都心のような典型的な成功例だけでなく、地域の性質を現実的に考慮した案の展開も必要だと感じた
- 大規模用地を運用していく為には、長期にわたる相当の戦略、戦術が必要だと思う。これらの事例を含めて勉強・話し合いがあれば良いと思う
- ①宜野湾市で誘致しようとしている MICE（マイス）について、普天間飛行場跡地に誘致したほうが宜野湾市及び県全体の将来についても、もっとも有効活用ができると思う。
- ③金融ビジネスセンターの設立
- すでにあるものの複製をつくるのではなく、新しいものを取り入れていけばいいと思う。自然を守るのも大切だけど、新しくして2倍にする発想があってもいいのでは？
- 普天間飛行場も含めた嘉手納以南の基地返還跡地の開発及び街づくりは沖縄県全体にとっても大変重要な問題だと感じた。各返還基地の個々の開発と全体的なつながりも考慮して進めていくことが成功のカギとなると思われる
- 今回のフォーラムに参加して改めて沖縄の地域性（基地がある）を再認識した。皆様のお話のように、大きなポテンシャルを秘めていると感じさせられるとともに、計画、方向性のむずかしさも感じた。いち県民として、跡地利用に協力できればと思う

「経済効果に関すること」

- 跡地には第一に若者が安定して仕事を持てる街づくりを考えて頂きたい。世界に誇れる街づくりを目指すことは大変すばらしい事と思う
- 現基地の経済効果について過小評価している。例えば防衛局の補助金、米軍人家族による買い物、米軍による米軍費、等が抜けていく。返還後は本土企業が特に設けると思う
- 経済効果（消費者の増加）←人口増加←集ってくる人々（年令）収入ターゲット
- 県も市も辺野古に移設することに力をまずそそぐべきだと思う。跡地に同じようなショッピング街ができて競争や既存の商店街への影響、不労所得の減少で6つの施設の返還で出した経済効果などないと思う。安全保障、災害時対策等の検証

「フォーラムに関すること」

- パネリスト5人では時間が足りなかったと思う
- プロモ動画は抽象的すぎる。
- メリット、デメリットをわかりやすく対比して示してほしい
- 平日午後開催時間を考えて欲しい
- 「全体計画の中間取りまとめ」の内容を簡単に説明してもらいたかった
- 素晴らしかった
- フォーラム開催の告知PR不足では
- 地権者の合意、人材育成等、幅広い視点の話が興味深かった。
- 勉強になった

「基地返還に関すること」

- 夢を語るのには良いとして、普天間は本当に返還されるのか？
- 基地返還後、経済は発展すると思われるが、周辺地域のコミュニティーが外部からの人の流れにより変化し、壊れる恐れがないか。外国人が多く入ってくると、沖縄の良さ、文化が子供たちに引き継がれなくなるのではないか
- 学識経験者や大物政治家がこぞって普天間の辺野古移設を断固反対している。辺野古阻止が実現されたら、普天間返還は空論に終わりがねないと心配している
- もっと街づくりの中心となるメインでインパクトのあるものがないと伊達さんのいう「世界に誇れる」というふうにはならないと思う。 嘉手納以南を一度に返されても、開発がついていかず、それぞれの地域の発展スピードがにぶり、何年たっても完成系が見えない状況にならないのかと心配
- 基地の町に生まれ、育ち、基地が返還させること等考えたこともなかったが基地返還が現実になるうとしている。将来を見据えた素晴らしい計画を立案していただくことを是非お願いしたい

「情報公開に関すること」

- 沖国大名嘉座氏の講演内容を県HPにアップして欲しい。基地経済依存の間違った認識を直すことから初めて欲しい。(本土の方々にも)
- 跡地利用のイメージは理解できた。後は都市構成、建設計画の具体的なスケジュールを提示ください
- 今後のタイムスケジュール的なものの提示が欲しかった

「その他」

- 普天間飛行場を交換して下さった知事はすごいと思う。この機にさらに沖縄が発展していくと思う
- 中南部都市圏の中での普天間跡地利用の位置づけが見えるものが欲しい
- 跡地利用の計画が出る平成28年度が楽しみ
- 県外、または海外からの資産家をパネラーにして、世界の動きを情報として取り入れて頂きたい
- 島国的な考えを捨てないとだれも来てくれない
- 沖縄を発展し、良くしていく為には偏見をもたず、いろいろな考えを聞いて、「沖縄の人だから、内地の人だから」という考えはなくして欲しい。最良なものを選んでほしい